

14

自 昭和十三年九月十七日
至 同 年十月十八日

隘口街青石橋附近攻略戦

戦 闘 詳 報

歩兵第百五十七師隊第三大隊

干場

ロ一

1493

九月十八日

軍より通報ニヨレバ將介石ハ師團當面ノ敵ニ山家山奪回ニ密
令ヲ發セリト

十七日、態勢ヲ以テ各隊ハ執拗ナル敵ノ逆襲ヲ排撃シテ警戒
ニ任ズ大隊當面ノ敵ハ其活動消沈ナラズ左翼方面特ニ華
龍山ノ方ニ漸次兵力ヲ增加シ我後方連結線ヲ脅威シタリ
廖家山南方地区ヨリ、敵迫撃砲彈ハ連日三ヨリ第一線及本部附
近ニ落トス

拂曉大隊長ハ第一線敵ノ備狀態ヲ巡視シ防禦陣地特障
碍物構築ニ関シ指導督勵ス

九月十九日

十七時ニ於テ聯隊命令ニ依リ師團ハ隘口附近ノ敵陣地ヲ攻撃
ス企圖ヲ以テ明日朝迄現態維持ヲ整理スルコトナル

聯隊命令要旨左如シ

一 左翼隊の明日朝迄現大部部隊ヲ整理シ午後ニ於テ攻
撃ヲ準備セントス

二 第一大隊の左第一線トナリ概テ現位置ニ於テ思嘴以南ノ敵對
ス攻撃ヲ準備スヘシ

三 第三大隊(西屬隊隊員)ハ右第一線トナリ明日朝迄
清風嶺附近ノ敵警備ヲ騎兵隊ト交代スルト共ニ同日朝迄ニ揚

庄以南、右翼隊第一線部隊(歩兵第四九隊)ト其ノ警備ヲ
交代シ概テ同線ニ於テ思嘴北側高地ノ敵ニ對スル攻撃ヲ準
備スヘシ

敵警備ノ交代ニ関シテハ當該部隊ト協定スヘシ
工兵二分隊及RBA門ヲ原所屬ニ復歸セシムヘシ

四 11 RMG(右隊ヲ附ス)ハ概テ現在ノ線ヲ確保シ左翼隊ノ左側ヲ掩
護スヘシ

特ニ騎兵隊ノ襲撃ニ連絡スル上其一部ヲ高地脚ニ配備スルヲ要ス

昭和十二・十二小隊誌

后地撤退、時期、後命

尚、左翼、ト連絡ヲ密ニシテ要ス

右命令ニ基キ大隊長、小白大尉、副官ハ聯隊本部歩兵第百四十

九聯隊第一大隊本部ニ出張シ警備交代ニ関シ打合セヨラス

舌山附近ノ戦闘

一 戦闘前ニ程、山假我形勢、概要

小九月廿日我第一大隊ハ舌山攻撃ノ目的ヨリ、揚庄南方

高地警戒中、第百四十九聯隊左大隊ト其、警備ヲ拂脱

交代配備ヲ完了ス

廿三夕刻ニ至リ第十一中隊、蘆原山ノ警戒備ヲ第七中隊ト交代

シ蘆原山ニ轉進原所屬ニ復歸ス

心、當面、敵ハ仍カ九ノ始リ大隊ハ廿六日攻撃開始ニ至リテ

敵情地形、偵察隣部隊、左第一大隊右、右翼隊並大隊

ト周到綿密ニ連絡協調シ着々攻撃ヲ準備ス大隊本部

ハ蘆庄天ニ位置ス

同高地ニ於ルハ大隊ノ故意配備要圖第ニ如シ

(四) 北軍ヲ七時ニ至リ聯隊ノ攻撃命令セシ

聯隊命令ノ要旨

一 左翼隊ハ重兵ヲ右方ニ保持シ吉山ノ敵陣地ニ對シ明辛六日
砲撃ヲ成果ヲ俟テ攻撃ヲ開始シ富家東側高地胡鬼嘴
ノ線ニ進出セントス

二 右大隊ハ吉山ノ敵陣地ニ對シ明辛六日拂曉迄ニ楊庄蘆
泉塘ノ線ニ攻撃ヲ準備シ完了シ砲撃ヲ成果ヲ俟テ攻撃
重兵ヲ右方ニ保持スルヲ要ス

攻撃開始時期ハ概テ九時ト予定ス

三 左大隊ハ明辛六日拂曉迄ニ概テ現在ノ線以西ニ於テ攻撃ヲ準
備シ完了シ右大隊攻撃ヲ前進開始ト共ニ其ノ輕重火器ヲ以
テ右大隊ノ攻撃ヲ掩護スルヲ要ス南東各地方面ヨリハ敵ノ出撃

昭和十二・十二 小津防

ヲ阻止スシ

四IA中隊ハ概テ現陣地ニ於テ主トシテIIIノ攻撃ヲ妨害スル敵側
防火器ヲ求メテ射撃シ同大隊ノ戦闘ニ協力スヘシ

五RBA中隊ハ概テ現陣地ニ於テ主トシテIIIノ戦闘ニ協力スヘシ

軍隊一區分

右大隊

II配屬隊瓦斯班KIAノ分隊RMG一小隊

左大隊

I(第三中隊欠)配屬KIAノ分隊RMG一小隊

盧蒙山警戒備隊

IV配屬RMGノ分隊協力工兵四名(爆薬投時期ニ)

IA中隊(KIA一小隊欠)HIA三門

RBA隊三門

戦利迫撃砲一小隊 砲三門

予備隊

臨時編成予備中隊

協力部隊

左翼隊直協砲兵三々中隊

戰車第五大隊ノ第三中隊

工兵中隊ノ主力

戰鬪地域ノ境界

師團第一期攻撃實施間

右翼隊左翼隊(間都)楊庄各北端(望蒙)蒙ノ字東

者大隊(三) (側本直橋梁ノ方庄(張蒙庄各北端)組(孝道)各

其他敵ノ如シ

特ニ夜間ニ於ケル南方谷地及(廖)蒙山稜線ノ方伺ヨリタル敵ノ

逆襲ヲ考慮スルヲ要ス

左第一大隊ノ大隊ノ攻撃際ニ其ノ輕重火器ノ全カヲ以テ掩護シ

昭和十二・十二小津船

南方谷地方面より、敵歩撃ヲ阻止共カスル旨

舌山攻撃ノ際、大隊命令、要旨、老如シ

要旨

当面ノ敵情及左翼隊ノ企圖ハ元々如シ、左翼隊ハ重点ヲ右

方ニ保持シ先ツ舌山ノ敵陣地ヲ攻撃シ、續イテ汪家嘴ノ敵

ヲ攻撃ス

大隊(RMG)ノ分、瓦新堡ノ左翼隊右第一線トナリ、十六日舌山ノ

敵陣地ニ對シ拂曉迄ニ揚庄盧家嘴ノ線ニ於テ攻撃ヲ準備

シ砲撃ノ成果ヲ待ツテ攻撃ヲ前進ヲ開始シ呂家東側

高地胡家嘴ノ線ニ進出セントス

攻撃前進ノ時期ハ九時ト定メ

右ノ第七中隊第十中隊第十中隊第一線天明迄ニ前記

ノ線ニ進出シ攻撃ヲ準備スベシ

四RMGAノ概シ現在ノ高地後線附近ニ陣地ヲ占領シ第一線ノ

口ト

<p>戦闘ニ協力シ香山占領後速ニ追及ス 田第九中隊ハ予備隊トス 且新班ハ予備隊ノ位置ニ集合シ後部ヲ待ツベシ</p>	<p>(六)大隊 戦闘ニ協力スル部隊老ノ如シ 一 戦車隊(五時ヨリ本道方面ヨリ香山攻撃ニ参加ス) 二 小隊(第一線後方ヲ續行シ突撃ニ當リ投射器ヲ多用ス)</p>	<p>三 HAA 戦利迫撃砲小隊A(適宜大隊 戦闘ニ協力ス) (七)隊 縮帶所ハ楊庄南側高地東麓ニ開設スヘシ 夜間ニ於ケル合言ノ果ハ必勝ニ信念トス</p>	<p>(八)予ハニテ六時楊庄南側高地ニ在リ 卒後戦闘ニ進捗 三件ヒ香山高地ニ至ル</p>	<p>(九)彼我ノ兵力 香山高地 敵兵力 重機 三 軽機 五 小銃 約 三〇〇</p>	
--	--	---	---	--	--

昭和十二・十二小隊功

我兵力

歩兵四中隊

重機六

平射歩兵砲一

戦闘經過の概要

(一) 第十中隊ハ九月二十六日四時盧庄天ヲ出発五時楊庄南ノ高
 地ニ到着大隊右第一線中隊トシテ攻撃準備ヲ完了ス
 ニケ小隊ヲ第一線トシテ小隊ヲ予備隊(中隊後)トシテ攻撃前進九時
 第一線ヲ以テ楊庄南南方無名ノ軒家ニ進出シ砲撃ノ成果並戰
 車ヲ進分ヲ待ツ

十時戰車進出ト共吾山向ヒ攻撃前進ヲ敢行シ十時五分吾山
 敵第一線陣地ニ向テ占據シ續テ西南方高地ニ向ヒ敵ヲ急追ス
 十時五分吾山ヲ占領ス 敵軍土路上及方庄方同ニ退却シ追撃射
 撃ヲシテ大損害ヲ與ヘタルモ中隊ハ右翼隊(歩兵第四十九聯隊某)
 大隊ノ戦闘進捗ヲ見ルテ占領地ニ確保シ尔後ノ攻撃ヲ準備ス
 (二) 第十中隊ハ中央第一線トシテ午前六時盧家塘即落ニ進分シ砲撃

成果、戦車隊、側防火器制圧、共攻撃前進、十時五分、舌
 山北端高地、向猛烈、果敢突入、其一角ヲ占領、第十中隊ト
 協力、退敵ヲ急追シ、同高地南端ニ進出、十時五分、同高地ヲ占領ス
 第十中隊、第一線、左中隊トシテ、六時行動開始、十時、盧家灣線進
 出、友軍砲兵、協力ヲ俟ツテ、突撃開始、十時、五分、東部舌山ヲ占
 領、引續キ、西南シテ、追撃シ、舌山南端ヲ占據セリ。
 中隊正面、敵、第九師ニシテ、旅四七四團ニ當リ、四ッ小隊ニシテ、我攻撃
 ニ依リ、~~敵~~舌山方向ニ密集退却セリ。
 其兵力約二百名、中隊ハ之ニ對シ、追撃ヲ實施セリ。
 (四) 機関銃隊、楊庄南ニリ、高地、陣地ニ於テ、第一線中隊、戦闘ニ
 協カス、舌山敵陣地、左翼、中央、及、其、南方、敵重火器ヲ制圧シテ
 第一線歩兵、突入ヲ援護ス、尔後、第一線中隊、舌山占領、其、舌山高
 地ニ陣地ヲ變換シ、萬庄ヲ西南方、梅家灣方向ニ退却スル敵ニ對
 シ、猛射ヲ浴セ、多大ノ損害ヲ與ヘタリ。

昭和十二年十二月二十二日

(五) 八揚庄南方高地西北後線上陣地進入ヲシテ舌山敵陣地ノ右翼

及呂庄附近ノ敵重火器ヲ制圧シテ主トシテ第七中隊戰鬪ニ協力ス

舌山高地占領後直ニ追及該高地ニ進出シ敵ヲ猛射ス

(六) 八揚庄南方高地ニ於テ舌山敵陣地掩蓋銃眼ヲ猛射シテヲ撲滅第

一線中隊攻撃端緒ヲ作リ尔後第一線中隊舌山占領ト同時ニ追

及該地ニ進分シ呂庄西側高地ノ敵對戰車砲及重火器ヲ猛

射シテ大ノ損害ヲ與フ

(七) 第九中隊ハ予備隊トシテ本部ノ行動ヲ共ニ警戒シ任ズ

工兵小隊ヲ第一線右隊ニ配屬シ敵逆襲ヲ阻止シ協カス

三本戦鬪ニ於ケル彼我ノ損害

我戦傷 將校ニ名(相來少尉・京増少尉) 下士官兵一

敵遺棄棄死体 二八

尙此外ニ敵ニ與ヘタル損傷ハ甚大ナル數ニ上ルモノト認ム

俘虜 一 排長(中尉) 岡實文

鹵獲品 輕機一 小銃一 拳銃一 重機彈三〇〇 手榴彈二〇 小銃彈三〇〇 地圖其他書類(排長所有)	四 本戦闘ニ於ケル射耗彈	小銃彈 二二六〇發	重機彈 六七四〇發	平射砲彈 三發	五 戦闘ノ効果	敵陣地ハツ駭式ニシテ然モ完備セル側防ヲ以テ吾ガ大隊ノ進撃ヲ阻 止セルモ歩戰砲一丘ニテ力攻ハ勿論特ニ意思果敢ナル犧牲的挺 進ニ依リ岳山高地ヲ占領セリ此ノヲ第一大隊方面ノ戦況ハ頓 ニ進展シ薄暮時胡田嶺ノ線ニ進出スリ	敵ハ逐次壓迫セラレ温増傳ノ方向ニ退却ス	六 参考トナルハ見	一 戰車協力戦闘ハ本攻畧戦ニ於テ初回ニシテ戰車成果ヲ瞬間的
---	--------------	-----------	-----------	---------	---------	--	---------------------	-----------	-------------------------------

昭和十二・十二小隊傍

ニ利用シテ附隨シテ攻撃スルト云フ莫ヨリスレバ暫時傍觀依存シタル傾キアリ。將來戦機ヲ看破シ之ガ利用遺憾ナラシムル要アリ。

2. 攻撃前進ニ際シ第一線中隊ノ隊形ハ一般密集シ且田ノ畦ヲ一列側面

縦隊ニシテ正規ノ疎開隊形ヲ採ルコトナリ本戦闘ニ於ケル損害ハ密に集セル所ニ砲彈落下セルニ起因ス。

3. 敵情地勢ヨリスレバ特種煙使用ノ好時期ナルモ一般兵教育不徹底ノタメ使用出来ザリシハ遺憾ナリ。

七 大隊ノ戦闘經過ハ要圖第三ニ如シ。

第一線各隊ハ工事ヲ擴張シテ警戒ヲ嚴シシ明廿七日ニ襲撃ニ萬庄ニ進歩ノタメ敵情地勢ヲ偵察シテ攻撃ヲ準備シ夜ヲ徹ス。

二 萬庄附近ノ戦闘

一 戦闘前ニ於ケル彼我敵勢ノ概要

昨廿六日我歩戰砲二隊ニ攻撃依リ敵續々梅家灣方向ニ退却シ部少數ノ者ガ停止抵抗シ在リ。

然、江家嶺西方高地(右翼隊正面)江家嶺(第一大隊)附近一帶、敵一連陣地アリテ大隊ハ左右山ヨリ挾撃シテ不利ナル態勢ナリ、隣接大隊同線迄攻撃進展スレバ大隊攻撃ハ困難ナリ。

三七日拂曉迄來、敵情地勢ヲ偵察シ敵僅少ナルヲ探知シ黎明、共大隊本部ハ香山南端ニ進出シ攻撃ヲ督勵ス敵兵力ハ輕機三小銃約一〇〇ナリ。

大隊命令ノ要旨

(一) 大隊ハ黎明時ヲ利用シ萬庄及其附近ノ高地ヲ奪取シ、ト共老大隊ト連繫シ梅家嶺ノ敵陣地ヲ奪取シ續イテ右翼隊ノ予定線ニ進出セントス。

(二) 第十一中隊第一中隊ハ黎明時ヲ利用シ萬庄高地ノ敵陣地ヲ奇襲攻撃シ爾後第一大隊江家嶺方面後梅家嶺方向攻撃前進スベシ(此ノガタメ第一中隊ハ協力ス)

(三) 第九中隊(大隊左)第十中隊ハ江家嶺北側高地ニ於テ右ノ第九・第十

昭和十二年十二月 小津信

十中隊順序ニ攻撃準備ヲ整ヘ第一大隊ト連繫シ拂曉ト共攻撃開始スヘシ

(四) KIA MG 現在協力中隊協力ニ尔後梅家灣ニ向テ攻撃前進スヘシ
(五) 予備隊トス中央後ニ位置スヘシ

二 戦闘経過 概要

(一) 第十中隊ニ黎明前敵情地ヲ偵察スルモ黎明攻撃機至ラザルヲ知リ機ヲ待ツ午前八時機就スニ一小隊ヲ第一線ニ一小隊ヲ予備隊トシ一擧ニ前方水田ヲクリクニ線ニ進歩ツ道ニ予備隊ヲ左翼ニ増加一小隊ヲシテ右翼高地ノ側防火ヲ制圧セシテ一小隊ヲ以テ附近高地ニ向テ攻撃ヲ敢行シ八時五分高地ニ角ヲ占領シ九時敵軍附近高地ヲ完全ニ占領ス敵ハ軍路上ヲ過塘傳方向ニ退却ス
(二) 第十中隊第十中隊ニ連繫シ午前時友軍砲撃成果ヲ巧ニ利用致シ八時五分其先頭ヲ以テ萬庄部落ヲ突入殘敵ヲ掃蕩ス尔後高

地西南進出、梅家灣、温塘傳方向ニ動揺退却スル敵ニ対シ銃全火
力ヲ発揚猛射シテ大損害ヲ與ヘリ。

(三) 第十中隊ハ舌山高地ニ於テ第十中隊ニ連撃シテ前進ヲ掩護ス。八時五分
萬庄ニ進出シ後第九中隊ハ小隊ニ連撃シテ方底高地南端ニ進出シ
梅家灣方向ニ對スル攻撃ヲ準備ス。

(四) 舌山砲臺ニ警戒中ノ第九中隊ハ小隊ニ對シテ黎明前第十中隊後方ニ進出
シ攻撃前進シ其ノ方底ニ進出シ第十中隊ニ連撃シテ同高地南端ヲ占領
シ梅家灣方向ニ對スル攻撃ヲ準備ス。

(五) 機關銃中隊ハ小隊ヲ第十中隊ハ小隊ヲ第十中隊ニ聯隊機關銃ハ
第十中隊ニ各々協力シ攻撃開始シ其ノ舌山高地ニ於テ特ニ萬庄兩方
高地ノ敵側砲臺ヲ猛射シ第一線中隊ヲ前進ヲ掩護ス協力中隊ト共ニ萬
庄高地ヲ追及進出シ梅家灣、温塘傳方向ノ敵ヲ猛射シ大損害ヲ與ヘリ。

(六) KIAハ舌山高地西側ニ在リテ第一線中隊持第十中隊ヲ攻撃す前
進際ニ萬庄附近ノ敵陣地ヲ猛撃シ前進ヲ掩護シテ方底ヲ占領ス。

昭和十二年十二月二十二日

三 敵高地ニ進出シ梅家湾方向ニ對シ射撃準備ス

三 本戦闘於ニ彼我損害

我戦死 將校一 第九中隊長長武中尉

我戦傷 下士官六

敵損害死體 三

四 獲品 小銃 二 小銃彈 三發 崖頂所著眼鏡 三

四 本戦闘於ニ射花彈數

小銃彈 三五〇發

重機彈 三七〇發

手榴彈 二發

平射砲彈 四發

五 本隊戦闘終過要圖第ニ如シ

三 梅家湾東南方高地附近戰闘

一 戰闘前於ニ彼我戰勢概要

第線中隊ハ九月二十七日ノ占領態勢ヲ以テ警戒ニ任ズ

該高地ニ半垣間閣、低矮線ニシテ隘口街方面ニ暴露シ梅家灣高地ニ在

北側高地カラノ側防火甚シク加フルニ廿七日夜半以來、降雨激シク壕

内ニ浸水スル、状態ニシテ執拗ナル敵逆襲ハ連日連夜ニ亘リテ行ハレ

警戒部隊ノ辛苦甚表スルニ言ハシ(警戒配備要圖第四如之)

十月二日攻撃ヲ轉スル迄ニ數名ノ死傷者ヲ出ス

其間敵情地形ヲ偵察スルト共ニ午後攻撃ヲ準備ス

梅家灣高地攻撃ニ對シ大隊長ハ一部ヲ現在地ニ殘置警戒ニ任

セシメ大隊主力ヲ大轉進セシメ江家嘴方向カラ第一大隊連襲ス

ニ襲テ該高地ヲ占領セント決シ轉進シタメ河川架橋特種煙彈藥ノ

補充等島端ノ準備ヲ整フ

斯クシテ十月二日連日來、降雨止ミ將兵ノ意氣旺盛ナリ

午前五時大隊長ハ轉進攻撃命令ヲ出ス

大隊命令ノ要旨

昭和十二年十二月二十二日

一敵情並師團企圖元、如シ

左翼隊ハ左大隊ヲ以テ江家嘴西方④高地ヲ奪取シ續テ右

大隊ヲ以テ梅家灣⑤温塘傳攻撃ヲ企圖ス

二大隊本部一部ヲ現在地附近ニ残置シ主力ハ天明時ヲ利用シ左大隊

方面ニ兵力ヲ轉用シ梅家灣⑤温塘傳、敵ヲ攻撃セトス

三第十中隊(機)ハ現在地附近ニ陣地ヲ占領シ第一大隊及大隊主力

戦闘協力シ右右翼隊攻撃進捗ニ伴ヒ温塘傳方向ニ前進ス

ハシ

四大隊主力ハ六時三十分現在地出発、胡恩嘴ヲ経テ江家嘴東麓ニ至

リ攻撃ヲ準備ス

行進順序

第十中隊、第十中隊、機関銃隊、大隊本部、第九中隊

(但シ第九中隊、胡恩嘴附近ニ待機スヘシ)

五胡恩嘴ヲ以テ攻撃ヲ要領在、如シ

(1) 右より第十中隊 第十中隊 第一線

第十中隊 第一線 第十中隊

(2) 九時砲兵射撃開始ト共ニ老大隊先ツ(4)高地ニ進分シ大

隊ハ其後方ヲ續行シテ(4)高地ニ於テ左大隊ヲ跳越シ先ツ梅家

灣高地ヲ奪取シ續イテ温塘傳ノ敵ヲ攻撃ス

(3) 大隊攻撃ニABA 野砲(一中隊) 重砲(一中隊) 戦車(瀧石子高地)

協力スル也

(4) 兵小隊ハ胡恩嘴ヲ經テ江家嘴ニ至レ河川ニ輕渡橋ヲ架設ス

(5) 第九中隊ハ小隊欠ハ予備隊トス 暫ク現在地附近ニ伍四連ニ立止メ線ヲ攻

撃ヲ進歩ニ伴ヒ右翼後ヲ前進ス

ニ戦闘經過

(1) 第十中隊ハ六時三十分カ庄西南方高地ニ出發 江家嘴西方高地ニ至リ第

一大隊ト連繫シ大隊ノ左第一線中隊トシテ梅家灣東南方高地敵

昭和十二年十二月

ヲ攻撃シ十八時十分同地ヲ占領シ左第四中隊ト連絡ヲ終ル

同地占領、隙敵ハ前方凹地及梅家灣東側高地ノ陣地ヲ移動中ニシテ

也ニ猛射ヲ浴セ狙撃手外十數ヲ倒シタルモ小數ノ敵ハ既設掩蓋銃

坐ニ在リテ抵抗シヤリ

前面ハ凹地ニシテ薄首者トヤリシヲメ攻撃困難現在地ヲ確保警戒トナス

第十中隊ハ第十中隊ノ攻撃ニ連繫シ逐次者第一線トシテ該高地ニ進出

シ第十中隊ト連絡シ該地ヲ確保警戒ト任ス

三機関銃中隊ハ江家嘴高地ニ於テ梅家灣東方高地ヲ猛射シ敵掩蓋

銃眼ニ對シ全火力ヲ集中シ第十中隊ノ第十一中隊ヲ攻撃ヲ掩護ス

四萬庄ニ残置タル第十二中隊ハ西方高地ヨリ一々小隊ヲ以テ前方約百五十米

ノ小丘阜ヲ攻撃 十三時占領シ梅家灣ノ陣地ニ對シ側方ヨリ射撃シ

大隊主力ノ進出ニ協力ス

(五) 第十中隊ノ小丘阜占領ニ協力シ乍梅家灣南方高地ノ敵銃
眼ニ猛射ナル射撃ヲ送リ多大ノ損害ヲ與フ

〇-〇

三本戦闘ニ於テ彼我ノ損害

我戦傷 三十一士官兵

敵遺棄死体 一五

四本戦闘ニ於テ射耗弾數

小銃弾 三三五〇

重機弾 二八七〇

平射砲弾 三五

手榴弾 一五

特種煙 八〇

五攻撃開始前九第一大隊ト連絡ノ瓦斯班ヲ差込シ隊隊本部吉野

少尉指揮ヲ以テ江家嘴高地 端敵前ニ三〇米ノ地点ニテ一齊ニ発煙ス風

向東南風ニシテ稍友軍ニ交キカナルノ点アリシモ大々的ニ發煙ニ依リ敵ハ多大

ノ脅威ヲ感シ退却シ左大隊ノ戦闘ヲ容易トラシメタリ

大隊瓦斯掛佐久間軍曹ハ敵弾下ニ於テ挺身奮闘シ其目的ヲ達

昭和十二・十二小津站

成セシタリ

六、戰鬥成果並ニ參考トナルベキ所見

(一) 本戰鬥ニ於テ瓦斯使用ノ効果多大ナルモ未ダ第一線歩兵ハ発煙直

ニ裝面シ穴大數ヲ移ル動作緩慢ナリ 煙消失後敵ノ動靜ヲ窺ヒ攻

撃ニ轉ズル傾向多クアリ

又本日ノ瓦斯班ハ過早ニ敵前近クニ進出動作セルタメ 戦死傷ヲ出ス

歩兵第一線ト同線ニ於テ發煙スルヲ可トス 瓦斯兵ノ教育亦徹底シラス

日數日未ク降雨止ミ稀ナル快晴タテ 午後五時頃ヨリ攻撃準備セシ第一

線ハ西陽ノ強烈ナル直射日光ヲラケ吾ガ動作ハ敵陣地ヨリ極メテ明瞭ニシ

テ敵ノ狙撃ヲシケルコト多ク 偽裝ヲ十分ナラシムルノ要アリ

山岳地帯ノ攻撃ハ晝間ハ不利ナリ 薄暮又ハ拂曉時ノ攻撃 最も効果

アルモノト認ム

七、大隊ノ戰鬥經過要圖第五如シ

四梅峯灣南方高地附近の戦闘

一戦斗前に於て彼我の形勢

(一)十月三日薄暮ヲ利用シ東南方高地ヲ奪取セル第一線中隊ハ本三日拂曉一
拳ニ南方高地ヲ占領シ鉢巻山ニ対シ攻撃ヲ準備セントスルモ一部小數ノ
敵ハ高地右端ト左端中腹ニ掩蓋銃坐ヲ構築シ執拗然モ頑強ニ抵抗シ
朝来步兵砲機関銃ノ全火力ヲ充揚シ撲滅ニ努ルモ右中腹ニ掩蓋
銃眼ニ據レル狙撃手手輕機一ハ尚モ抵抗シアリ

(二)敵トノ距離ハ約三〇〇米ニシテ當面敵ハ第四〇師二八旅ニ三八團ニ營ニ属スルモノ
ナリ

(三)此ノ特種煙ヲ使用セントスルモ風向悪シ又工兵ノ爆藥投射器ニ依リ撲滅
セントスルモ距離遠ク松林ニテ隱蔽シ射撃困難ナリ

銳意攻撃ヲ畫策中黃龍山方向ノ敵砲兵ヲ発見スル所トナリ猛射ヲ第一
線ニ受テ併接第四中隊ニ於テ六十數名ノ死傷者ヲ出ス

斯クシテ砲兵POAト密ニ連絡シ突撃二期ヲ待ツ

該高地攻撃之下、セル大隊命令、要箇ハ次ノ如シ

一、大隊ハ三日一部ヲ以テ温宿子台上ヲ確保スルト共ニ主力ヲ以テ天明後砲撃

開始ト共ニ攻撃前進、鉢巻山ノ線ニ向ヒ攻撃セシトス

二、第十三中隊(既屬如故)ハ現在陣地ヲ確保スルト共ニ大隊主力攻撃協力スヘシ

三、第十中隊、第十一中隊、天明ト共ニ攻撃ヲ開始シ、鉢巻山ノ線ニ向ヒ攻撃スヘシ

四、機関銃中隊、第一線中隊ノ戦闘ニ協力スヘシ

五、予備隊ハ第一線中隊ノ中央後ヲ前進スヘシ

六、予ハ其蒙嘴西方高地ニ在リ

大隊ノ戦闘ニ協力スル部隊左ノ如シ

一、左大隊、鉢巻山高地攻撃ニ當リ重火器ヲ以テ協力

二、RBA A (約三中队) SA (三中队)

使用弾數ハ昨日ニ同シ、砲撃開始七時三十分

三、主トシテ鉢巻山、梅家湾、温塘傳南側高地ヲ射撃ス

ニ彼我ノ兵力

12/6

敵兵力 重機二 輕機五 小銃 二〇〇

我兵力 歩兵四中隊 重機六 平射步兵砲一

三戰鬪經過ノ概要

(一)十四時ニ至リ第十中隊第十中隊機関銃中隊ハ反撃セテ行機爆撃ヲ好機ヲ
 捉ヘ先ツ第十中隊松林中ヲ薩敵攻撃前進 直ニ突撃ニ移リ山腹ノ敵陣地
 ヲ奪取ス 敵ハ直ニ高地最高莫クテ手榴彈ヲ以テ猛烈ニ逆襲シテ来レリ
 也ニ對シ中隊ハ手榴彈及好小銃ノ全火力ヲ集中シテ激戦 二十分ニシテ也ヲ擊退
 シテ大ノ損害ヲ与ヘテリ十四時三十分同地ヲ確實ニ占領セリ
 敵ハ吾カ不意ノ突撃ニテ混乱其ノ極ニ達シ敵陣右端後方ノ稜線及梅原湾
 附近ヲ退却セルヲ以テ好小銃ノ全火力ヲ発揚シテ之ヲ殲滅的打撃ヲ与ヘ爾後鉢巻
 山攻撃ヲシメ敵情地勢ヲ偵察スルト共ニ現陣地ヲ確保ス
 (二)右第一線ヲリ第十中隊第十中隊高地脚占領ト共ニ追及シ同地右留ヲ進
 出ス 爾後一帯ニ梅原湾部著ニ突入シ逃ケ難レタル敵ヲ掃蕩シ同地ヲ占領
 確保ス 此ノ時十六時ナリ

(續三九四六一 三十一頁)

白機閃鏡中隊ハ高地右端第十中隊ノ位置ヨリテ敵陣地ノ各銃眼ノ就中左側銃眼ヲ壓シ任ス 第一線ノ占領後該高地ニ進出 敗敵ヲ盪射ス

四 第十中隊ハ十五時大隊主力ノ梅家灣南方高地占領ト共ニテ小隊(初芝小隊)梅家灣部落ニ攻撃ヲセシメ敵ノ側背ニ迫リ退路ヲ断テ也ニ多大ノ損害ヲ與ヘ夕刻同部著ク完全ニ占領シ第十中隊ト協力同地ノ確保ヲナス

五 敵 KIA ハ万庄西方高地附近ニ陣地進入ヲナシ梅家灣高地・温塘傳附近ノ敵陣地ヲ猛射シ第十中隊及大隊主力ノ進出ヲ掩護ス

四 本戦闘ニ於ケル彼我ノ損害
我戰死 三
我戰傷 一七 (下士官兵)

敵遺棄死体 六〇

鹵獲品 輕機 二 小銃 三 小銃及輕機彈 四〇〇〇

五 本戦闘ニ於ケル射耗彈數
小銃彈 四三〇〇

口ノ

重機弾

八三〇

手榴弾

一〇

平射砲弾

二五

六大隊戦闘經過ハ要圖第六ノ如シ

七戦闘ノ成果並ニ參考トナルベキ所見

(一)本攻撃ニ於テ飛行機ヲ未ノ好機ヲ直ニ利用攻勢ヲ轉シタルハ攻撃成功ノ一火起

因ヲナス 敵ハ飛行機ノ襲来ヲ恐怖スルヲ甚シク 射撃ヲ中止スル状態ナリ

(二)重擲彈筒ノ効果ヲ痛切ニ感ス 敵トノ距離約三五〇米輕擲彈筒ノ爆薬一枚

射撃ニテハ射巨遠外ナリ 然レ射撃スルニハ遠敵地附近ニ多クキ状態ニシテ重

擲彈筒ノ使用ガ出来得タレバ斯クモ攻撃力カ頓挫シタルコトナシ

將未乙編成ノ联隊ニ適宜重擲彈筒ノ交付支給カ可ナレハ戰鬥ニ屬有

利ニ進展セシ

(三)本攻撃ニ於テ平射砲ヲ第十ニ中隊協力ノタメノ万座ニ残置セルハ攻撃頓挫

ニ因リ大隊長カ直接適時使用シ得ル位置ニ當テ握シ置ラト緊要ナリ

然ラバ敵陣地左右ノ銃眼撲滅モ容易ナリシナラン

昭和十二年十二月

四 攻撃当初に於て敵砲彈、集中ヨリ受テ戦死傷續出シ攻撃精神極度現

滞セルモ 幹部ノ指揮掌ヲ握リシキヲ得順調ニ戦果ヲ擴張セルハ尙莫クヘキナリ

五 黃龍山東方鉢卷山一文字山附近ノ戦闘

一 戦闘前ニ於ケル彼我ノ形勢概要

(一) 大隊當面ノ敵ハ第四師ニシテ依然天險ヲ利用シ頑強ニ抵抗シアルモ三日以來ノ

吾カ歩砲一隊ノ力攻奮闘ニ依リ逐次黃龍山山脚温塘傳方向ニ壓迫サレシ

ンアリ

(二) 隣接第一大隊ハ大隊連繫ニ陸庄半辺月方向警戒ニ任ス 尚右翼隊

左第一線大隊正面宋家灣高地方向ヲ敵側射ハ猛烈且勝ヲ極ム

(三) 大隊ハ梅家灣南方高地一梅家灣部着ニ温厩子高地ニ進出シ一隊ハ

鉢卷山 一文字山ノ敵陣地ヲ攻目着ニ温塘傳方向ニ戦果ヲ擴張セルト

決シ次ノ如キ大隊命令ヲ下ス

大隊 命令、西セト

(四) 右翼隊ハ本日天明後攻撃ヲ續行ス

二五

(二)大隊(四)砲兵、射撃開始ト共ニ攻撃ヲ開始、鉢巻山一文字山ヲ奪取シ、
爾後温塘傳方向ニ對シテ攻撃ヲ準備セントス

(三)第九中隊(二)小隊(三)第十中隊(四)天明時マテ、鉢巻山東側高地ニ於テ鉢
巻山ニ對シテ攻撃ヲ準備シ砲兵、射撃開始ト共ニ機ヲ見テ該高地ヲ
攻畧スヘシ

但シ第九中隊(天明時迄ニ第十中隊ノ右ニ展開位置スルモノトス

(四)第十中隊(四)日天明砲兵、射撃開始ト共ニ梅家灣ヨリ同南側高地
及鉢巻山一文字山ニ向ヒ攻撃シ、爾後西方ニ向ヒ戦果ヲ擴張スヘシ

(五)第十中隊(二)小隊(二)第一中隊ヲ砲兵、掩護シ、残置ツ主力ヲ以テ未明温
塘傳方向ノ敵ニ對シテ攻撃ヲ準備シ、大隊主力ニ連繫シ機ヲ見テ攻撃スヘシ

(六)機関銃中隊ハ現在地附近ニ在リテ大隊主力第一線中隊ノ攻撃ニ協力
シ、爾後梅家灣方向ニ陣地ヲ交換スヘシ

(七)天明時迄ニ第十中隊ノ陣地附近ニ於テ陣地進入ヲシ、前面ノ敵重火
器ヲ撲滅スヘシ

昭和十二年十二月二十二日

ニ彼我ノ兵力

一 鉢巻山ニ文字山ノ敵兵力 重機三 輕機七、小銃約三〇〇

二 温塔傳附近ノ敵兵力 重機三 輕機二、小銃約一五〇

三 我兵力 歩兵四中隊(一小隊欠) 重機六、平射歩兵砲一

三戰鬪ノ經過概要

一 第一線各隊ハ八時砲撃開始ト共ニ砲撃ニ層接シテ一有ニ攻撃ヲ開始ス

第十中隊ハ十時鉢巻山ノ敵陣地ニ対シテ全火力ヲ發揮制圧セシメ攻撃前進

ヲ起シ山脚ヨリ一有ニ攻撃ヲ開始 十時十五分確実ニ之ヲ占領ス 直ニ逆

龍ニ備ルル共ニ退却セシメ一小隊ノ敵ニ対シテ殲滅的打撃ヲ与ヘリ 十時三十分敵二部ハ手榴弾ヲ以テ前方稜線ヨリ逆龍ヲ来レルヲ以テ全火力ヲ發揮シ

直ニ之ヲ撃退ス

中隊ハ右及左前方高地ヨリ斜射ヲ受テ尔後ニ前進困難ナル現況ニアルヲ以テ隣

接中隊ノ攻撃進捗ヲ待テ予是線ニ對シテ進出ヲ準備中ナリ

一 梅家灣部ニ進出シ温塔傳及文字山高地ニ対シテ銳意ハ攻撃ヲ準備中

第十中隊七時四十分攻撃準備完了機至ルヲ待ツ

九時砲兵射程延伸ト相俟ツテ攻撃ヲ開始 十時三十分一文字山東南

方高地ヲ奪取シ更ニ攻撃ヲ續行スルモ一文字山ノ敵銃眼猛烈ニ活動戰

闘交戦前進ノ不利ナルヲ知リ機ヲ窺フ 十五時三十分ニ至リ復軍砲兵ノ

射撃終ルモ左隣接 中隊攻撃進捗セ入 尚中隊正面左翼側防ノ

制在ナラサルモ地ニ高着スルノ不利ナルヲ知リMGノ協力を得テ獨力一文字山ノ奪取

ヲ企圖シ各小隊ヲ第一線ニ初芝小隊ハ 右ニ同時行動一挙ニ一文字山ニ

突入シ其ノ角ヲ續イテ左第九中隊モ攻撃ヲ起シ同四十分一文字山ヲ完

全ニ占領セリ

然ルニ占領終ルヤ有カナル敵ハ有利ナル地形ヲ利用シ第九第十中隊

正面ニ反覆逆襲ヲ来リ死傷甚多シ戦局ハ愈々激烈トナリ占據地

ノ確保容易ナラス

三 予備隊アリシ第九中隊ハ六時三十分行動開始梅家湾南方高地ニ進

出シ左第十中隊ト連繫シ攻撃準備ヲ整正フ

昭和二十二年小隊誌

十時十分第十中隊に連撃を攻撃前進十時鉢巻山高地脚に進出直に鉢
 巻山右前方高地に向て攻撃前進を開始し十二時三十分該地を占領ス
 十二時依然攻撃を續行し温塘傳南方高地に進出スハト大隊命令
 基キ十五時隊第十中隊ト協定シ攻撃前進開始ニ交戦四十分ニシテ
 一之字高地を確實に占領ス
 直に兵力を集結シ警戒配備に着ク同時作候ヲ派遣シ前方敵情地勢
 ヲ搜索ス 十六時四十分頃約三百五十敵ハ更ニ大逆襲ヲ逞ク第九中隊
 及第十中隊左小隊ハ奮戦乱闘 手榴弾戦或ハ百投擲戦ヲ演シ激戦
 二時間餘ニ亘リ死傷續出ス
 第九中隊ノ占領シ高地ハ岩石然ト急斜面ニシテ陣地ノ構築ハ到底不
 可能ニシテ 岩角又ハ石陰ヲ利用シ同地ヲ一時僅ニ一七名ヲ死守セリ
 尚同地ハ急斜面甚クシクテ敵投擲ノ手榴弾ハ山脚迄下リ炸裂セル為
 負傷後退中者モ重キ爆創ヲ受ケル状態ナリキ
 當時第十中隊ハ鉢巻山西部高地に進出セス一時一部進出シタルモ再ヒ

一七

1526

17-18

東部高地を後退シタル為第九中隊ハ左側背ヨリ敵龍ヲ受テ苦戦能ハ
 第十中隊第九中隊苦戦ト知ルモ林田小隊次ニ佐藤小隊ヲ第九中隊正
 面ニ増加シ是ト協力シ終ニ之ヲ撃退シ速ニ中隊右翼在リシ第九中隊
 初志小隊協力ヲ要求シ該面警備成リ併ニ担任シ終夜直ル反覆逆襲
 ヲヨリ撃退同陣地ヲ確保夜ヲ徹ス逆龍ハ同彈藥ヲ補充在リシ同及ノ
 第十中隊大隊主力ヲ攻撃進歩ト伴ヒ機ヲ見テ温塘傳ヲ攻哨スハトノ命ヲ受
 ケ未明温塘子ヲ出テ入
 温泉場ヲ過キン時黎明トナリ上リ階段狀ノ乾田ヲ約百米前進セシ時左打銃
 眼ヨリ側防火急雨如シ尔後ノ前進ハ困難ナルモ温塘傳ノ家屋ハ目捷ナリ
 依テノ意前進ヲ續ク其ノ一面ヲ占領ス時ニ六時四十分ナリ
 然レモ此時到着セル人員ハ十四名ニ他ハ途中ノ小流ノ線温泉場附近ニ停
 止シ天明ナル敵射撃ハ甚シク前進意ノ如クナラス遂ニ停止スルノ已メ
 キニ至レリ 依テ十四名ヲ以テ占領地ヲ確保敵情地ヲ偵察スル部若南
 側ハ約十五米乃至二十米高ノ敵ハ此ノ高地ニトテカニ三個(樟蓋銃坐ヲ構築

(三) 四六四六一 三十三(三)

シテ温埔子方向ヲ猛射シ該高地ト隣レルト五ノ敵ハ逐次増加シ其數百ノ者小銃ヲ以テ攻撃シ米リ情況不利ナリ 全員立哨シ家屋各口ヲ警戒シシ傍村者掃蕩ヲ行ヒ温埔傳部著ク完全ニ占領ス

黄昏ニ入リ小銃ノ聲ニ在リシ中隊主力到着シ大イニ力ヲ得タリ

(四)機関銃中隊ハ梅家灣南方高地ニ於テ鉢卷山及一文字山ノ敵

ニ猛射ヲ浴セ第一線中隊該高地ニ進出直後ニ追及シ第九第十中隊

附近ニ陣地ヲ占領温埔傳及其西南方高地ノ敵ヲ射撃ス

敵ハ大逆龍巻ニ際シテ全火力ヲ發揮猛射シ彈藥手ハ歩兵中隊員傷者

ノ銃剣ヲ振ラテ突入シ刺殺或ハ射殺シ之ヲ潰滅セシム

尔後一ツ分隊ヲ鉢卷山第十中隊ニ陣地ヲ更換セシメ協力警戒ヲオカシム

(六)温埔子南方小丘ニ在リテ第十中隊温埔傳進出ニ協力シ尚温埔傳

西南方高地ノ敵陣地ヲ射撃シ大隊主力ノ一文字山進出ニ協力ス

(七)KIAハ梅家灣南方高地ニ陣地ヲ占領シ同地ヲ一文字山右中腹ノ銃眼

及鉢卷山銃眼同後方高地ノ陣地ヲ猛撃シ之ヲ潰滅シ主力ノ進出ヲ容

02/19

易ナラシム

四本戦闘ニ於テ爾彼我ノ損害

我戦死 一七 (下士官四 兵一三)

我戦傷 四三 (輕傷一 (第九中隊長 長島中尉戦傷又) 下士官八 兵三三)

敵遺棄死体 二〇〇

上國獲品 輕機五、小銃三五、拳銃一、手榴彈 五〇

小銃輕機彈 七〇〇、円匙七、十字鋏 四

五本戦闘ニ於テ爾射耗彈數

小銃彈 一二九〇〇

重機彈 一〇九四〇

手榴彈 三九〇

平射砲彈 三〇

六大隊戦闘經過ハ西七圖第七ノ如シ

七十月五日ニ至リ第線各隊ニ畫表ニ〇〇有刺銃線ニ〇ヲ補充シ工兵隊ノ

協力指導ノ下ニ晝夜兼行防衛陣地ノ強化ヲハカル

特ニ昨夜逆龍谷ヲ受ケシ第九中隊ニ完全ナル掩体構築セシム尚赤筒花煙筒ヲ支給シ逆龍谷備ノ

第十中隊正面ノ鉢巻山西方高地ハ之ヲ確保セリハ第九中隊方面ニ於テ該

高地ヨリ側射ヲ受ケ確保困難ナル狀況ニ鑑ミ第十中隊ヨリテ攻撃ヲ得取セ

シム 而シテ同地ハ屹立セル小兵隊ニシテ攻ムルニ易ク守ルニ難キ地砂ニシテ十時

第十中隊ハ之ヲ小隊ヨリテ工兵ノ爆薬投射ヲ平射砲協力ノ下ニ容易ニ占

領セシモ直後左龍谷山方向前面逆龍谷中腹陣地ヨリ迫撃砲ノ集射中

火ヲ浴ビ員傷ニ着ク出シ長ク該地ニ停止セルハ無益ノ損著ク爲ルヲ以テ止ムヲ以

位置ニ後退ス

未キ數回ニ亘リテ同地ノ攻身ヲ企圖スルモ敵ハ逐次後方ニ退却シ逆龍谷

未キス 同地鉢巻山確保ニ際シ工兵爆薬投射ノ効果成大ナルヲ痛感ス

入戦闘ノ成果並ニ考テ之ヲ見

兵隊ノ歩砲ニ依リ鉢巻山ニ文字ノ占領ハ難ク其因ヲ多クナル

九

17-20

1530

打撃ヲ受テ即チ温塔傳隘口街方面ト陸庄、華龍山方面ノ敵後ヲ連絡
線ヲ確實ニ遮断シ六日以後敵退却ノ動機ヲ作ラシメ

本戰鬪於テ八地形不利ナルヲテ敵逆襲長ヲ依リヨク大ナル戦死傷者ヲ出シテ師
團全散ヲ見ハ作戦上ニ一大非難ヲイサシムルモノト思考ス

師團長ヨリ大隊奮斗ニ對シ賞詞ヲ受テ

山敵陣地占領後ハ特ニ暴徒階セサルヲ然モ陣地確保、逆襲長阻止ニ對シ

意克分ヲスル兵ニ至ルヲ徹底セシムルヲ要ス

山鉢巻山後方高地ノ確保ニ當リ工兵隊協力ハ緊要ニシテ特ニ逆襲長阻止ノ

タメニ使用ル投射器ノ効力ハ甚大ナルモノト認め

四敵陣地突入ニ際シ別命ヲモテ下級幹部以下ハ速ニ手榴彈ヲ投擲シ得

ル準備ヲ整ヘ適時セカ威力ヲ發揮シ突撃ノ效果ヲ充分シラシムルノ意

意少シ 速ニセカ徹底教育ノ要アリ

五敵ノ手榴彈ヲ對シテ速ニ伏匿シ其ノ損害ヲリ免ルルノ着意ヲ有シラズ

六望嶺西方高地及△50高地附近ノ戦闘

一戦闘前ニ於テ彼我勢ノ概要

十月六日左翼隊正面ノ敵退却ノ徴カルヲ探知セル大隊ハ二〇時鉢巻山ニ弟

十中隊第九中隊(次)所ノ右隊ヲ当面ノ敵警戒ニ爲殘置シ右翼隊

長ノ指揮ニシテ主力ハ左隊主力ト共ニ江家嘴ニ集結 夜半ニ時

出発 長駈黄塘舖ニ向ヒ追撃ヲ開始ス

十月七日宋庄附近ニ進出セル際 先遣隊タル第一大隊嵩山西山尖

隘路口附近ニシテ交戦中ナルヲ知ル

大隊ハ速ニ第一大隊ニ連繫ヲ望ミ嶺高地ヲ占領シ警戒ニ任スヘキ 左隊命

令ヲ受テ十五時該高地ニ占リ第十二中隊(附) 第十三中隊 HIA(II)ヲ

第一線ニ第九中隊ノ半分ヲ予備隊ニ能勢ヲ警戒戒配備ヲ終ル

敵軍ニ路 但家街西房附近ニ動揺中ナルヲ発見シ HIA(II)ヲ以テ射撃シ多大

ノ脅威ヲ与ヘリ (警戒戒配備ハ要圖第八ノ如シ)

十月八日隘口方面敵ノ退却遮断ノ目的ヲ以テ望嶺最高峯及△50

高地進出ヲ命ゼラレ十五時第十一中隊(附)ニ對シ速ニ西部皇領東方高地ニ進
出一部ヲ以テ各要點ヲ確保シ軍工路方面ノ敵情地形ヲ搜索スル命令ヲ下ス
十七時大隊本部ハ皇領(附)ノ西方高地西側鞍部ニ進出シ攻撃関スル命
令ヲ與フ

大隊命令ノ要旨

一 大隊主力ハ速ニ第十一中隊ニ追及シ皇領西方高地方面ニ進出シ敵ノ退路ヲ
遮断セントス

二 第十一中隊ハ速ニ進出準備ヲ整ヘ皇領稜線上ヲ前進シ小隊ヲ以テ皇領最
高峰ヲ奪取確保シ主力ハ該高地西方斜面ヲ占領シ黃龍山方面ニ對シ敵
武ヲシ

三 同高地奪取後大隊本部ト連絡スル

四 機関銃中隊ハ速ニ進出準備ヲ整ヘ第十一中隊與ニ協力スル

五 第十一中隊(附)ハ予備隊トシテ大隊本部ニ共ニ前進スル

六 同高地ハ速ニ進出準備ヲ整ヘ大隊主力ニ追及スル

(續三九頁大 一 三十和親)

予大隊主力ト共第十中隊方向ニ前進ス

二彼我兵力

敵兵力 重機三 輕機四 小銃一五〇

我兵力 歩兵三中隊又中隊三 重機三 曲射歩兵砲一

三戦闘経過概要

第十中隊八十五時△山高地占領、任受テ諸準備ヲ了シ十六時五分

西尖北方約五百米ノ高地ヲ出発途中有力ナル敵ト遭遇シ且難路ニ入

リ意外ニ時間ヲ費シ十九時四分△高地南麓ニ到着シ直ニ攻撃ヲ

轉シ敵ヲ駆逐シソソ山頂ニ迫リ二十時頃概テ山頂回五ノ米ニ接近

シテ左側防柵内銃及山頂敵ノ頑強抵抗ヲ刺シ敵深ク我行動

ハ頗ル困難ニシテ敵ノ射撃ニ最有利ニシテ攻勢ヲ遂行セズ終ニ兵力攻

ム山頂ヲ奪取スルニ至ラス

△望遠高地北部ヲ占領中リテ第十中隊八日十七時北側望遠(俗稱三

道)高地ヲ占領スルニ命ジ依リ直行動開始ス高地向南側ニ進出ス

地物偵察ヲ行フ拂曉攻撃ノ準備ヲ整ヘ遂ニ敵ハ
此等陣中將兵ヲ苦多シ

十月九日七時戦雲ヲ知リ攻撃ヲ開始ス 然レモ敵ハ高嶺高地ニ逐次兵力ヲ

(中二六三)既道ヲルミリ又 西部望遠高地ニ陣地ヲ構ヘ側防ヲ先備シ前

進意ノ如クナラス 八時擲彈筒及所協力ヲ以テ南端第一高地ニ突

入續イテ第一第三高地ニ突入シテ完全ニ占領ス 時ニ九時五分ナリ

尚部ヲ該高地ニ残置シ敵ノ側防ヲシテ南部望遠高地ヲ攻撃シ十時三十分

分ヤリ占領確保ス

十四時第十三中隊ニ協力シ高地ヲ攻撃スルニ命令ヲ受テ直ニ轉進シ所

協カキ制圧射撃ヲ巧ニ利用シ十六時三十分高地東側ニ突入シ占領シ尚

攻勢ヲ續行シ十九時最高嶺ニ向ヒ敢然突撃斷行シ遂ニ此ヲ占領シ完全ニ

確保スルニ至リシ夜陰地ヲ認識極メテ困難ナルミナリ人糞草木深ク敵地

動物ヲ巧ニ利用 手榴彈ヲ以テ前夜ニ回シ白リ夜籠衣ヲ来リタルモ反テ

損着ラズハ此ニ反撃ス

(証九以大一三十一列四)

第十三中隊ハ朝未攻撃準備中ニシテ第十二中隊及四ノ協力ヲ得 猛烈な
火力ヲ撃テ攻撃ニ移リ十九時三十分漸次内薄ニ突撃ヲ以テ遂ニ△²⁵⁰ノ山頂ヲ
占領人敗退セル敵兵カ六七十名ナリ

曰哉関銃中隊ハ第十一中隊ノ攻撃ニ協力シ望ミテ高地(第三高地)ニ第十二中
隊ニテ小隊ト一分隊ヲ残置シ主力ハ西方高地ノ攻撃ヲ敢行人

尔後△²⁵⁰高地攻撃ニ際シテ△²⁵⁰小隊ヲ協力セシメ東方高地ヨリ猛射ニシテ大
損害ヲ与ヘタリ

十九時三十分第十一第十二中隊ノ高地占領ト共ニ残置ノ小隊ヲ追及セシメ協
カニテ陣地ノ撤去成ヨラス

(四) HIA 〇八十四時西部望上領附近ニ陣地ヲ占領シ第十二中隊ノ△²⁵⁰高地攻撃
ニ協力ス

日本戦闘ニ於ケル彼我ノ損害

我戦死 五

我戦傷 一〇 (将校一 初等少尉)

敵遺棄死体 一七

國獲品 小銃彈 五〇〇

手榴彈 三〇

五本戦闘ニ於ケル射耗弾数

小銃彈 四四〇

手榴彈 一八〇

重機弾 一八〇

曲射砲弾 二〇

六大隊戦闘經過ハ西ノ圖第九ノ如シ

七戦闘ノ成果ニ参考トナルハキ所見

一西ノ部ニ望ム高地ニ攻撃ハ時機ヲ速ニシテ感アリ江蒙衝ヲリ現在此地迄一夫運送

撃依リ兵ノ疲勞甚大ナル基因ス 此方攻撃ヲ七日望ム領一帯ニ警戒配備

完了直後ニ實施セハ容易ニ該地ヲ占領確保ヲ得リ 到着當時敵

影ナキ状態ニテ八日十二時以後ニ敵ハ現出ス吾ニ対陣セリ (後日敵ノ遺棄品セル軍

命令ニヨルモ敵ハ七日夜一團ヲ望ム領奪回ニ派遣セル事アリ)

三高峻ナル山岳ニシテ歩兵砲ノ運動鈍ク攻撃ハ遅滞セリ

尚死傷多クシテ歩砲一隊ノ遺棄ナク斃擲出未得ス 特ニ歩兵砲小

(續三九四六一 三十一初組)

隊長、挺進偵察連絡、必要を痛感ス

七〇高地南方獨立高地附近、戦闘

一、戦闘前に於て、彼我、秋勢

一、十月九日大隊ハ△△高地、占領セシモ、雜草木殊ニ深ク、尚一部、敵ハ本々、四面

方、高地及高地中腹、潜伏シ、小銃ヲ以テ、成興ニ狙撃ス

曲射砲、KBAヲ以テ、潰滅セシトスルモ、觀測ト適當ナル位置ヲテ、十五時ニ至リ、傍ニ在リ

同ニ大隊、主力ヲ轉進セシメ、北背後ヨリ攻撃スルヲ決ス

三十七時、第十中隊、及機關銃中隊、青竜衝西方高地、KIA、HIA、川、店、店部

落ニ進出シ、十月十一日、攻撃ヲ期シ、警戒ヲ嚴シシ、夜ヲ徹ス

三、追及到着セル、第天隊、本朝、深山、腦附近、進出シ、單ニ階ニ、敵退ルル敵集

團、及西灣、江附近、敵陣地ヲ、猛射ス

四、十七時、有、吳隊、指揮下、在リ、隘口、衝、陣、ヲ、突、敵、進出セル、第十中隊、公、營

在附近、於テ、大隊、隸下、復歸ス

四、十月十日拂曉、以來、狙撃砲ヲ、増シ、テ、各中隊、敵情地形、ノ、搜索、テ、十月十五

〇一〇〇

時々期に砲撃下ニ該地ノ占領ヲ決意シ大隊長代理小日大尉ハ次ノ如ク命
令ヲ下ス

大隊命令要旨

一 大隊ハ砲兵射撃効果ヲ以テ速獨五高地ヲ占領セントス

二 第十一中隊ハ現在地ニ獨立高地北側ニ向ヒ攻撃スルコト

三 第十中隊ハ第十一中隊第十一中隊ノ中間層加獨五高地中央ニ向ヒ攻撃スルコト

四 第十一中隊ハ獨立高地ヲ獨五高地左側面ニ向ヒ攻撃前進スルコト

五 機槍銃中隊ハ現在地ニ於テ第十一中隊第十一中隊ニ對シテハ第十一中隊ノ戰闘ニ

協力ス後該高地ニ進出陣地ニ變換ヲナスルコト

六 第九中隊ハ予備隊トシテ中央後ニ位置スルコト

ニ 彼我ノ兵力

敵兵力 輕機五 小銃一〇〇

我兵力 歩兵四中隊 重機六 平射歩兵砲一

曲射歩兵砲一

(物三九四六一 三十一部収)

三 戰鬪經過之概要

一 第十中隊ハ唐家灣ヲ出発十五時青竜嘴西方高地ニ進出シ第十中隊ニ連繫シ其ノ左翼ニ増加シ大隊ノ中間中隊トナリ砲撃開始ト共ニ獨立高地ニ對シ攻撃ヲ開始ス先ツ砲ノ全火力ヲ射撃ヲナシメ主力ハ十五時三十分突撃ニ移リ同四十分山頂ヲ占領ス

敵ノ後線沿ヒ一般坂方向ニ退却シソソアリ該敵ヲ追撃射撃ヲナシメ共ニ同高地ノ確保警戒ニ任ス

二 第十中隊ハ第十中隊方面ノ戰況依然進展セルヲ一々小隊ト附テ分隊ヲ協力シテ出シタル砲戰ヲ進展セシ十五時中隊全力ヲ擧ゲ砲ヲ協力砲撃下地砂地物ヲ利用猛攻激戰四十分逐ニ山上ノ敵自動火器ヲ撲滅シ機ヲ失ヒス突入左第十中隊ト同時刻山頂ヲ占領警戒ニ任ス

三 機関銃中隊ハ青竜嘴西方高地ニ於テ敵陣地ヲ猛射シ第一線中隊該高地ヲ領ト同時進出シ砲嶺方向ノ敵走ル敵猛射ス

四 KIA HIA 〇 高地上及高地脚ニ陣地進出シ獨逸高地ニ敵自動火器及一般

D-25

坂部等ヲ猛射シ第一隊中隊協力ス

四本戦闘於ル彼我損害

我戦傷 二

敵遺棄死体 三〇

鹵獲品 輕機一 小銃八 拳銃一 拳銃彈 三〇

小銃彈 一五〇 防毒面一

五本戦闘於ル射耗彈數

小銃彈 三二〇 手榴彈 二〇

重機彈 三一三〇 平射砲彈 二二

六第十中隊ハ十七時三十分本ヲ殷家坂ニ進出シ第一大隊長指揮下ニ

ルヲ命ヲ下シ獨立高地ヲ我ハ第十中隊ヲ以テ任セシム

尔余主力ハ潘庄附近ニ後退集結シ服隊ニ後命ヲ待ツ

大隊戦闘經過要圖第十ノ如シ

七戦闘ノ成果並ニ参考トナルヲ所見

(續三九頁大一一三十四頁)

(一) 本攻撃隊砲兵、挺身協力、遲滞セシメテ着シテ頓坐ヲ来シテ加フル地
功錯カゼシテ眼隊砲、進出協力モ意、如クテラス亦各隊、自己所
有ノ重人層ヲ以テ先ツ制圧シ攻撃ヲ發揮シ轉スヘキ觀念減少セル起
因スルトコトナリ

(二) 攻撃隊ヲ機関銃中隊、歩兵中隊間連絡協調、動作ハ充分
ラス殊ニ第一線歩兵、敵陣地突入ニ際シ掩護制圧射撃ニ於テ遺憾ナ
ク莫クシ

寧口歩兵中隊配属使用スルヲ可トス

(三) 十五時野砲兵到着ニ第一線中隊ハ砲撃開始ト共ニ能ク砲撃ニ層
接シ約甲分ニシテ該高地ヲ占領セルハ歩砲ニ休メ莫ク遺憾ナク發揮セルヲ
確認ス

(四) 第一線中隊ハ莫ク發揮前適時予備隊ハ全輕機ヲシテ制圧射撃ヲ
ナシシメタルハ本攻撃ヲ迅速ニ進展セシメ因ナリ

(五) 大隊、該高地占領ニ依リ般般坂刈家嶺附近ノ敵ハ砲嶺方向敗走

之者第大隊西灣法徐家嶺進出ヲ容易ナラシメタリ

十月十二日

一△高地ニ設置セシ相澤隊(10)ヲ尔後取隊ノ直轄ニ亦第十中隊ヲ

第一大隊長ノ指揮ニ入ラシメ大隊主力ハ六時第九中隊第十中隊(14)

行軍序列ヲ以テ潘庄ヲ出発シ徐家嶺ニ至リ取隊ヲ備隊トナル

二十時第九中隊ヨリニケ分隊ヲ派遣シ取隊戰鬥司令所ノ警戒ニ任セシム

二十九時第十二中隊第九中隊ヨリ下士官各々二組ヲ出ラシメ取隊本部

主トシテ刘家嶺身石嶺方面ヲ警戒セシム

四德永少佐病氣入院シテ第十中隊長小白大尉大隊長代理職務ヲ執ル

十月十三日

ハ予備隊ハ午前五時三十分徐家嶺ヲ出発シ。12.9 行軍順序ヲ以

テ隘地迄シテ刘家嶺北側谷地ニ進出シ兩大隊ノ戰鬥進捗ニ伴ヒ戰果

擴張ヲ準備ス

(約三九頁大 三十一頁)

ニ第一線大隊、軍工路ヲ突破シ、馳嶺北側高地ヲ攻撃中ニシテ、刻々
リ戦況頓ニ進展セリ

予備隊、薄暮時但家均ニ進出ス

三十七時第十二中隊より一ヶ小隊ヲ第一大隊ニ予備隊トシテ派遣ス

第九中隊(將校指揮スルニヨリ)ヲ陶家灣北側高地ニ駐シ、左翼隊、

右側ニ警戒セシム

又、四房及坦家均本道上ニ下士官ヲ出シ警戒セシム

十月十四日

一但家均ニ位置シ依然予備隊アリ、左第一線第二大隊ニ赤筒発煙

筒運搬多ク、五十名差出シ協力セシム

ニ予備隊、兵力、第九中隊、第十二中隊(示隊欠)MG(五)

相澤隊、二十四時其ノ任務、終リテ大隊復帰ス

三同夜ニ於ケル警戒ニ就テ備左ノ如シ

一、固庄北ノ閉鎖油線高地ヲ、馳嶺北端ニ亘ル間、警戒ス

ロ〜マ

9.10 若々下士哨一組 四房及軍工路入口附近に警戒

十月十五日

一 依然但家均に在リテ 駐隊予備隊ナリ

二 同時第十一中隊(小隊名)ヲ北部馳嶺鞍部附近ニ出テ警戒ス

ニ 任セシム(一〇二七)到着セバ交代原所屬ニ復帰ス

同時第十一中隊ヨリ四房附近ニ下士哨ヲ派遣シ後方ヲ警戒ス

ニ 冬禱禱ノ交付、コレヲ予備隊種ヲ実施ス

ニ 本日第十一大隊ハ特種煙ヲ利用シ馳嶺ノ最高點ヲ奪取セリ

第十一大隊ハ前門附近ニ進出ス

十月十六日

一 予備隊ハ六時但家均ヲ出発シ前門西側谷地附近ニ進出ス

駐隊本部ハ七時前門ニ進出セリ

第十一大隊ハ九時園嶺及大嶺頭ヲ取リ上賜嶺方向に戦果ヲ

擴張中ナリ 第十一中隊ハ十時大隊ニ復帰ス

(三十九頁大 一三九頁)

十二時聯隊本部及予備隊ハ圓嶺北側附近ニ進出ス

二十五時三十分第九中隊ヲ加藤少尉ヲ將校トシテ圓嶺一刘家境迄

出路ニ偵察ヲナシム

同時第十中隊ヨリ一小隊ヲ圓嶺西側鞍部ニ出ツ般家坂方向ヲ對

戒セシム 第十二中隊ヨリ一小隊ヲ圓嶺東南側高地ニ出ツ象山方向ヲ

對警戒スル上其野砲ノ陣地進入ヲ掩護セシム

三火行本ハ良ノ部隊ト連絡ヲ保持シ適時適切ナル補給ヲテ第一線ヲ

動ラ谷易ナラシム

夜ニ入リ寒氣激シク炊爨意ノ如クナラス 露營ノ辛苦特ニ甚シ

十月十七日

十六時三十分圓嶺北側高地ヨリ第十中隊ノ一小隊ヲ尖兵トシテ刘家境ニ

向テ前進ス

軍旗護衛小队ヲル 10:30 交代セシム

十時右第一線第三大隊ノ部隊集結掩護シテ第十中隊ト同一小队

ヲ派遣ス

六十一時五分揚庄ノ經留居ニ進出ス 同地ニ在リ第一大隊ニ連絡シ左第一

線トナリ胡庄附近ノ敵陣地ヲ攻略スハトノ取隊命令ニ接シ大隊直ニ

胡庄進出路偵察スルヲ第九中隊大木曹長ヲ任使シテ派遣ス

三第一大隊ニ派遣セシ第十中隊ニMG一小隊ハ十四時大隊復歸ス

大隊直ニ第十中隊(尖兵中隊)ヨリ第九中隊MGノ順序ヲ以テ胡庄

ニ向ヒ急進ス

四印塘附近ニ進出スルハ山塘坳高地ニ殘存セル敵ノ猛側射ヲ受テ前進

意ニ切シナラス区令各個前進ヲ以テ地形地物ヲ利用シ北方ニ急進ス

一 庄部落ニ集結ス

八胡庄郭庄附近ノ戰鬥

一 戰鬥前ニ於テ復テ地形勢ノ概要

一 當面敵ノ配置 混成部隊ニシテ各章ノ猛攻ニ依リ逐次西方ニ潰走

北ニ潰走シテ李庄、當庄、山塘坳附近ノ高地線ニ一部ノ敵依然

(第三九頁大 一 三十四頁)

頑強に抵抗シテ

騎兵隊は自下袁庄附近に進出シ山塘坨附近に敵を攻撃中ニテ午後吳庄一
西邊坨道ヲ郭庄ニ向テ攻撃スル者

同第天隊及第第隊ハ敵を駆逐シツ深ク突進シ十月十七日十時胡庄
附近に高地線ニ進出シテ敵を攻撃中ナリ

四聯隊予備隊トシテ園嶺一劉家境一楊庄一雷庄一袁庄ニ進出シ大
隊同地ニ於テ第線増加ノ聯隊命令ヲ受ケ

聯隊命令ノ要旨

第天隊(第十中隊)は欠平射一分隊(曲射一分隊ヲ配屬)ハ左第一
線トシ袁庄西端ニ展開シ張庄曾庄敵ヲ駆逐シ本道南側地
区ヲ先ツ郭庄ニ向テ追撃スルニ曾庄附近ニ於テ第五中隊ヲ其ノ指揮

下ニシテ

四依テ天隊ハ袁庄一高庄一趙庄ニ進出シ全圖ノ北山塘坨潘庄高地
敵側防火器ハ活発ニシテ前進意ノ如クナラス

10-29

高庄附近MG及KIAヲ東方高地陣地進入セシム潘庄附近ノ敵陣地ヲ猛射シ
之ヲ黙セシム大隊カ第十第九第十二小隊MG HIA KIAノ行軍序列ヲ以テ
趙庄附近十六時迄ヲ了ス

(六) 趙庄於テ下ケル大隊命令ノ要旨左ノ如シ

要旨

(一) 大隊(ハ) 地方(ハ) 胡庄李庄劉庄道以南地区ヲ當
面敵ヲ攻撃シ遠ニ郭庄ニ進出セントス

戦利追奪砲小队ハ當大隊ノ戰鬥ニ協力スルガ若

(二) 第五第十第九中队ハ第一線トナリ現在地ヲ確保スルト共ニ前面ノ敵
情地勢ヲ偵察シ明拂曉以後攻撃ヲ準備ス

(三) 機関銃隊ハ明拂曉迄第一線中隊間ニ陣地進入シ拂曉以後攻撃
協力ニ特ニ當庄及以南高地ヲ掃射シ得ル如クIAト協定シ陣地ヲ偵察
スル如ク着意ス

(四) KIA HIAノ明拂曉迄第一線陣地ヲ偵察シ大隊戰鬥ニ協力シ得ル如ク

(三十九頁大 一三十一頁)

準備スヘシ

四 第三備隊トナリ趙庄ニ位置シ明十八日六時出発準備ヲ整フヘシ

六 予、明拂曉趙庄西方部署ニ在リ

二 戰鬥終過ノ概要

十七日十五時ヨリ山嶺地方向側射ヲ著クテ各中隊ハ趙庄ニ進出シ企圖シテ

個體進ヲ先ツ攻撃據点トナルヘシ該地ニ集結ス

第十中隊右第一線トナリ担澤中尉之ヲ指揮シ潘庄附近殘存敵ヲ猛射

一中ヲ然モトシ階段狀水田ヲ躍進スルニト約五百米十八時先頭小隊ヲ以テ西方

高地ニ進出 該地ヲ確保ス第九中隊左第一線トシテ趙庄部諸ヨリ疎

開隊形ヲ以テ第十中隊ニ連絡 該高地ニ向ヒ攻撃前進 又當面庄附近ニ

前進セル騎兵隊トシテ連絡シ十八時頃西方高地ニ進出シ該地ヲ確保

警戒ヲナス

四 高庄東方高地兵ヲ潘庄附近ニ敵陣地ヲ制圧シ大隊主力ノ前進ヲ援護中

光附及附ハ十六時趙庄ニ追及進出ス

機銃隊、直落、敵中隊中間地、陣地進入、曾庄附近ヲ射撃場力ス

四新ニ配属、第三中隊、胡庄北方高地ニ在リ、十九時ニ至リ、第十中隊ヨリ、候ヲ派遣、連絡ス。大隊ノ戦線過、要圖第十一ノ如シ

四第十中隊ヨリ、曾庄附近ノ敵情搜索、夕下ニ候、派遣ス。未ダ曾庄附近ノ高地ニ一部少数ノ敵ハ頑強ニ抵抗シ、終夜威嚇射撃ヲナシ、

四十八日、時ニ至リ、我隊ヨリ、第十中隊ノ報告ニ依リ、左翼大隊正面ノ敵ハ遂次郭庄方向退却中ニシテ、我隊ハ拂曉ヲ期シ、現所在地、郭庄ニ向ヒ追撃セシメ、第三大隊ニ、時ニ至リ、我隊本部ノ位置ニ集合スヘシト、命令ニ接シ、時趨序ヲ出テ、我隊其力ニ合ス

第一、第二、第三大隊、行軍序列ヲ以テ、郭庄附近ニ進出ス。敵ハ我ヲ追撃、知ル、逸早ノ郭庄附近ノ木橋ヲ渡リ、陣地、周庄ニ後退シ、既設陣地ヲ據リ、我ヲ進撃ヲ阻止ス。一部ヲ以テ、敵ヲ射撃セシメ、渡

(三九四六一三三頁)

河棧料ヲ拾集シ渡河具ノ補修ヲナス攻勢準備ヲ整ツ 十八師ニ至リ
現地ヲ確保シ渡河目的ヲ以テ敵情^情地勢ヲ搜索ヲナスヘシトノ取隊命
令ニ接シ次ノ如キ大隊命令ヲ下ス

大隊命令ノ要旨

一 左翼隊ハ其ノ第一線ヲシテ郭庄東北方高地及郭庄東南方高地
線ヲ確保セシメ渡河目的ヲ以テ敵情地勢ヲ偵察ス

二 大隊ハ左第一線トナリ郭庄一郭庄道以東地区ヲ確保シ
德安川附近ノ敵情地勢ヲ偵察セントス

三 第十中隊 第十中隊 MG 一小隊 第一線南部郭庄東方高地ヲ確
保シ渡河ノ目的ヲ以テ敵情地勢ヲ偵察ヲナスヘシ

右大隊トシテ戰鬥地境ハ郭庄道トスヘシト命令ス

四 第十中隊(第一大隊ヨリ復歸後) MG 一小隊 備隊トナリ郭庄西方高
地ニ位置スヘシ

五 第九中隊ハ取隊ヲ備隊トス

020/

命令其大隊警戒配備要圖第十三如左

三本戰鬥於其後我損傷

我 數

敵遺棄死体 二〇

捕 虜 二

四本戰鬥於其後我耗彈數

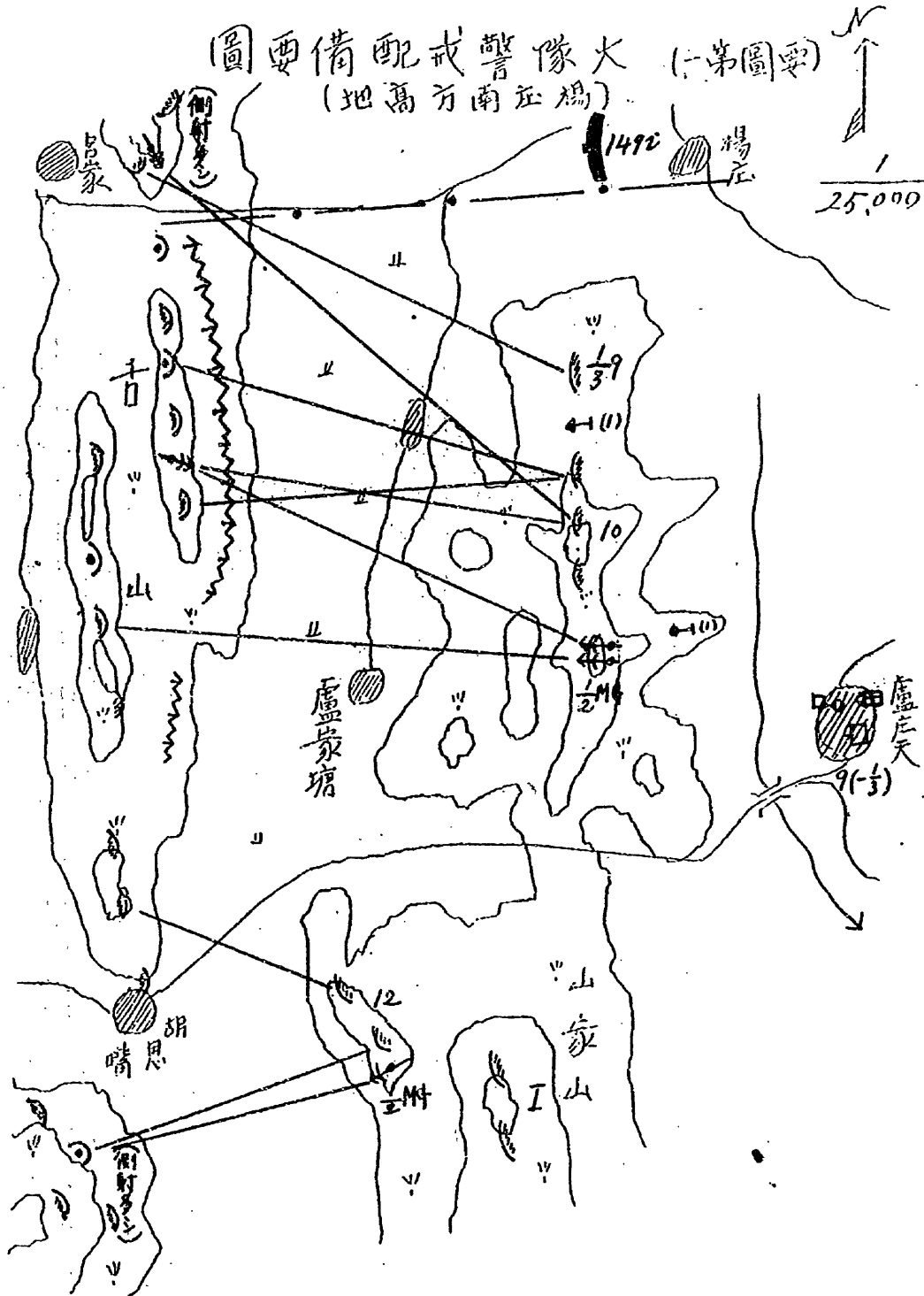
小銃彈 二一〇

重機彈 二四〇〇

平射砲彈 一五

(海三九四六一 三十一列略)

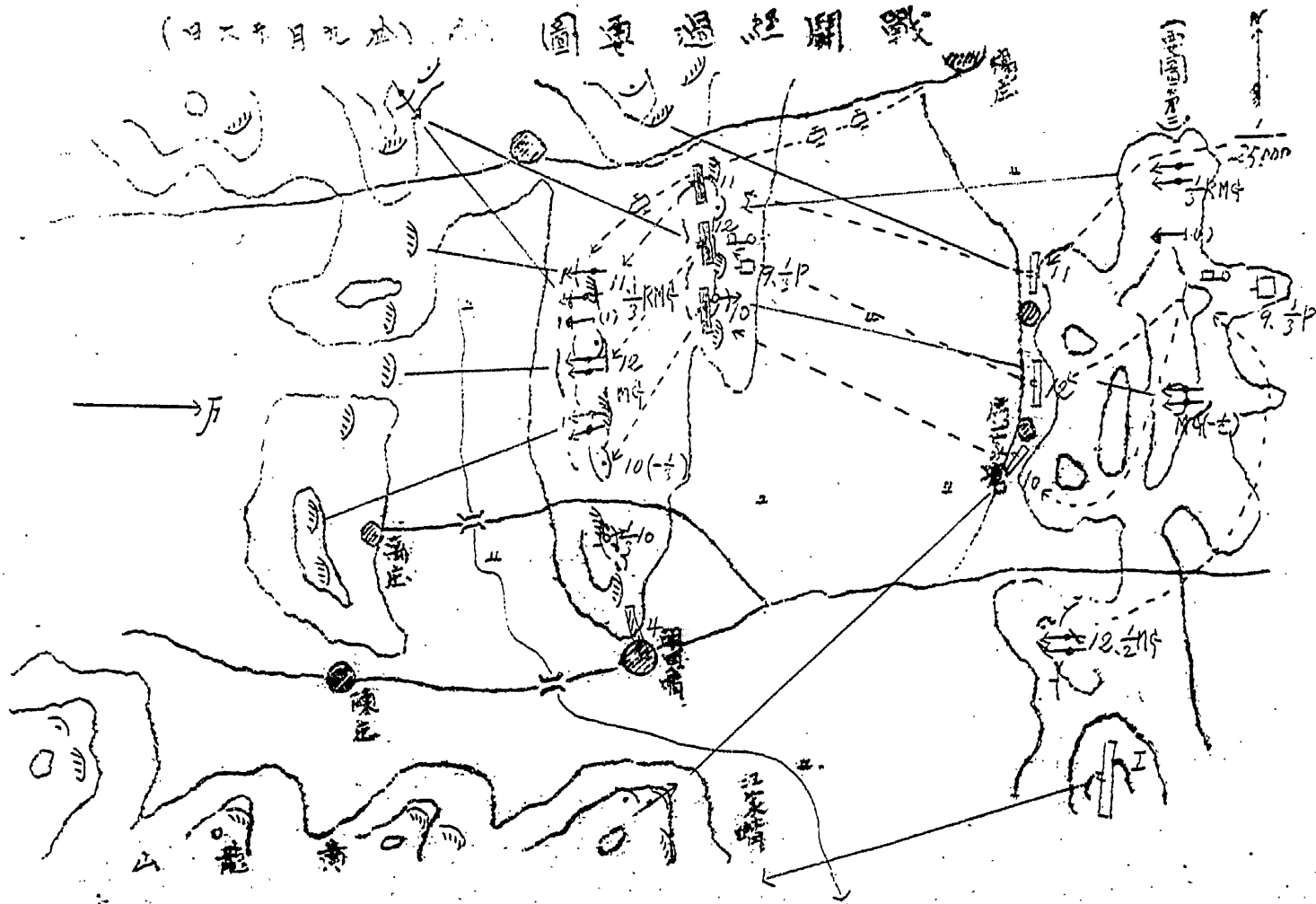
圖要備配戒警隊火 (一第圖要)
 (地高方南庄鳩)



1554

Draw 2

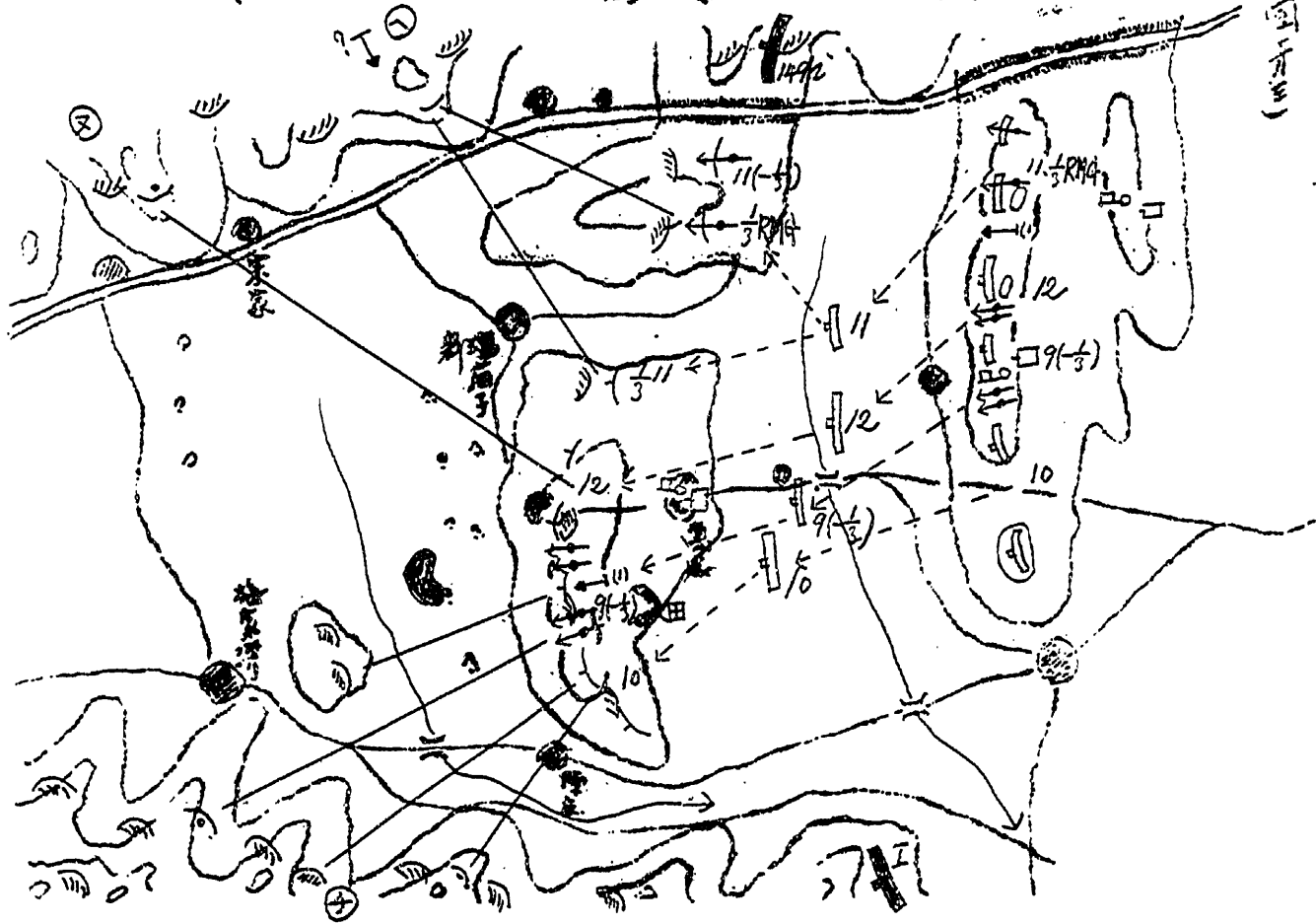
關東湖地圖 (白元月元盛)



1555

Draw

戰國經通要圖 (林有本大日)

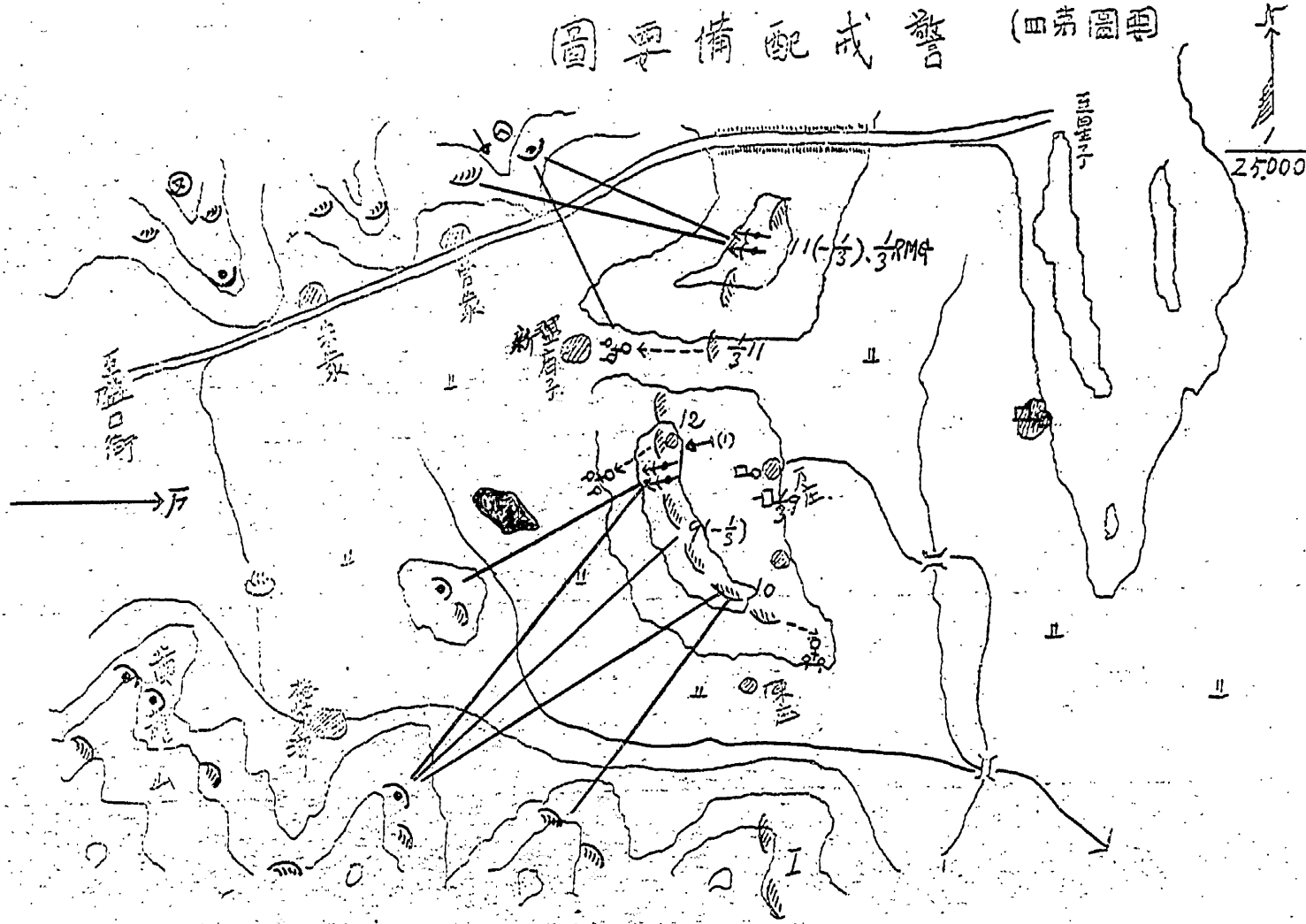


25,000

1556

1556

警戒配備要圖 (田清國尉)

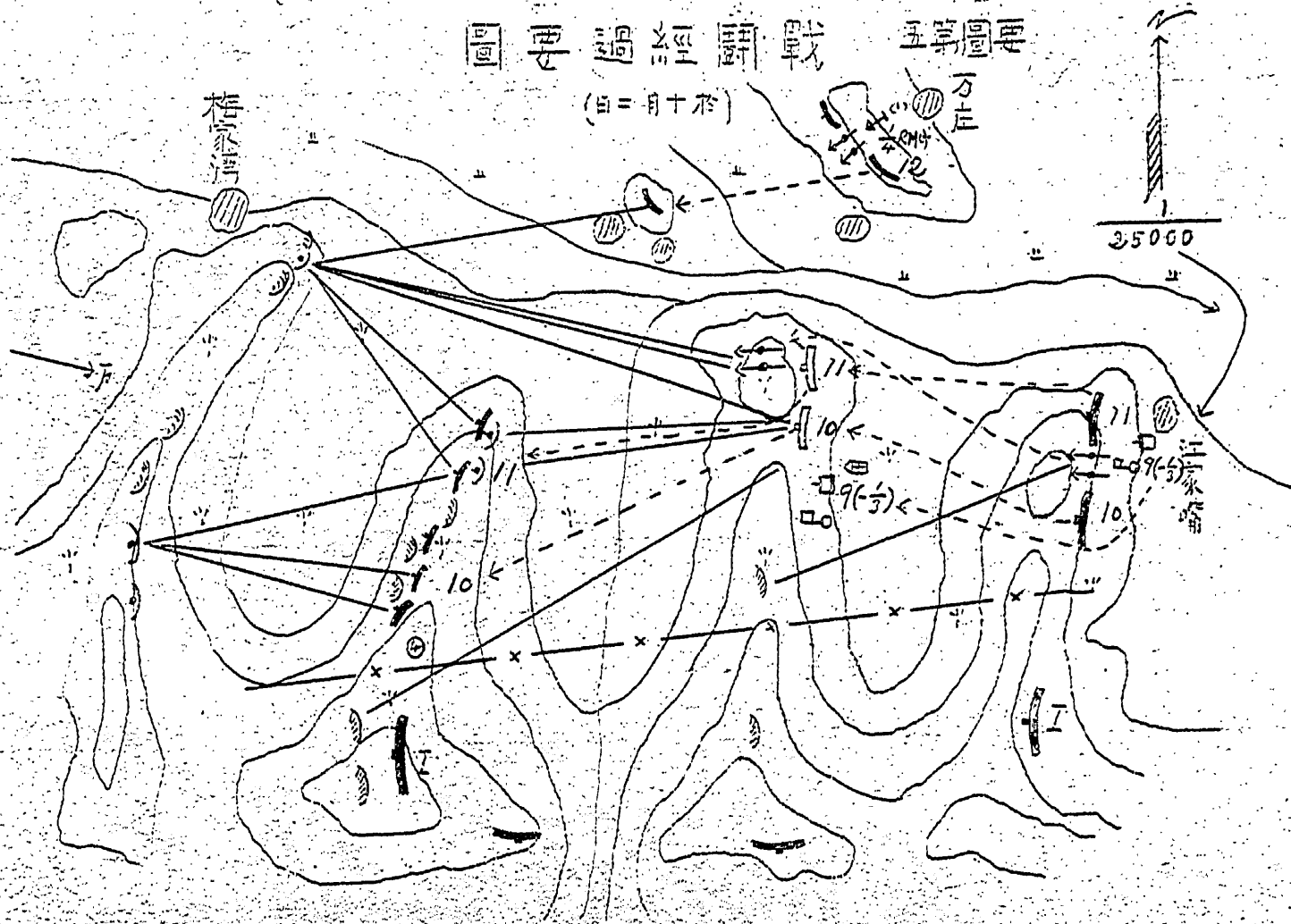


1557

10-11-12

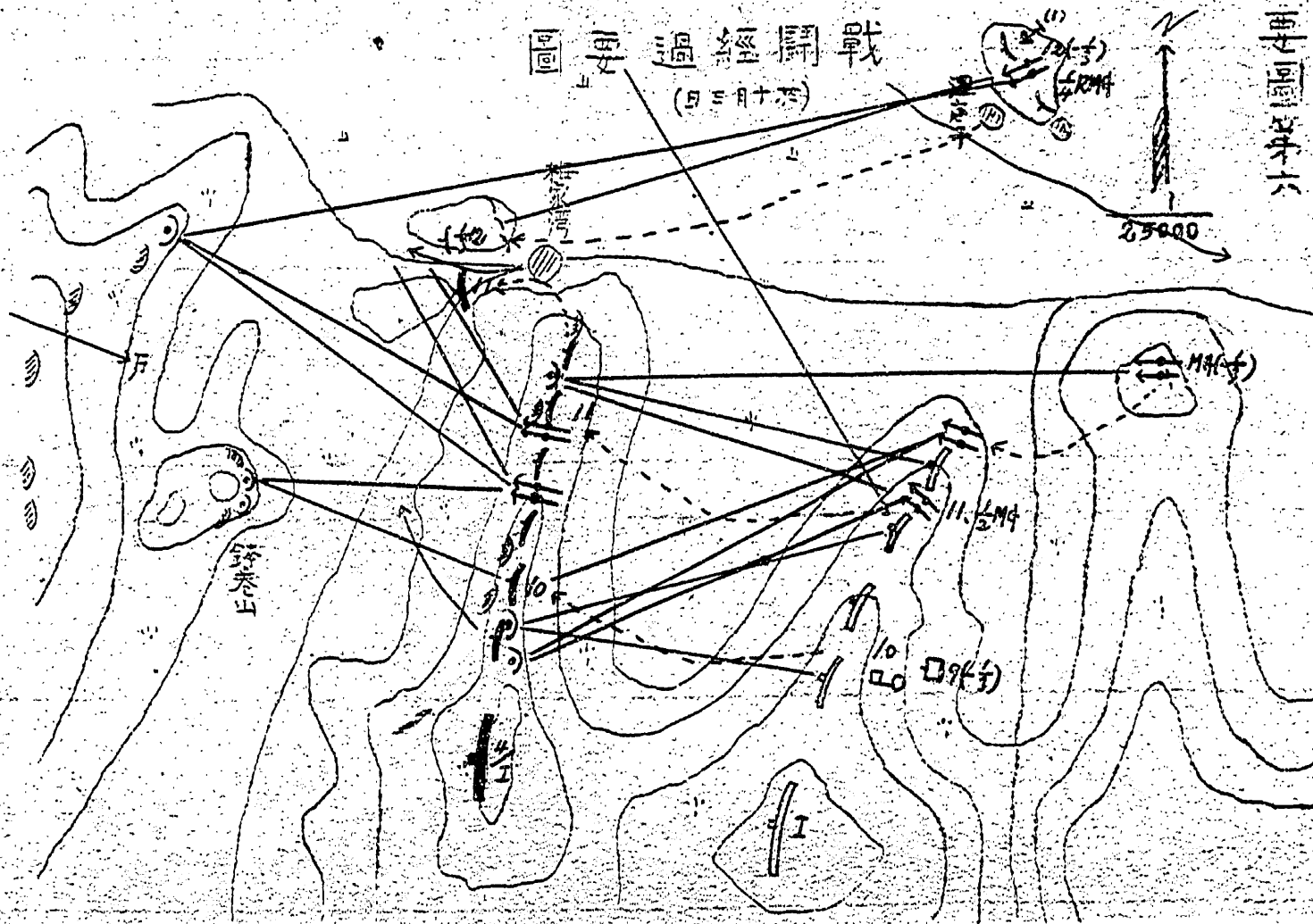
戰國經略要圖 第五圖

(於十月一日)



1558

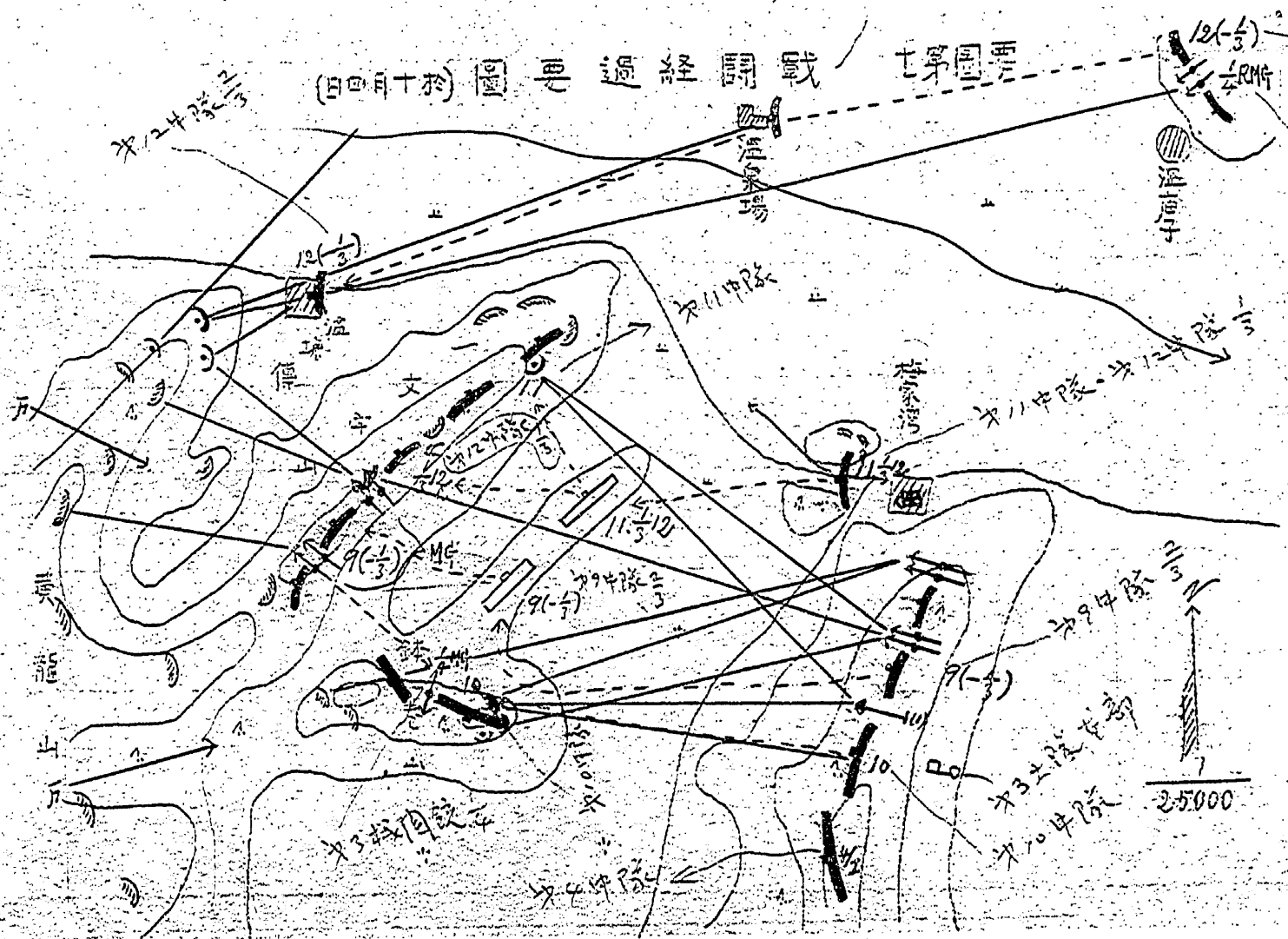
10-06



1559

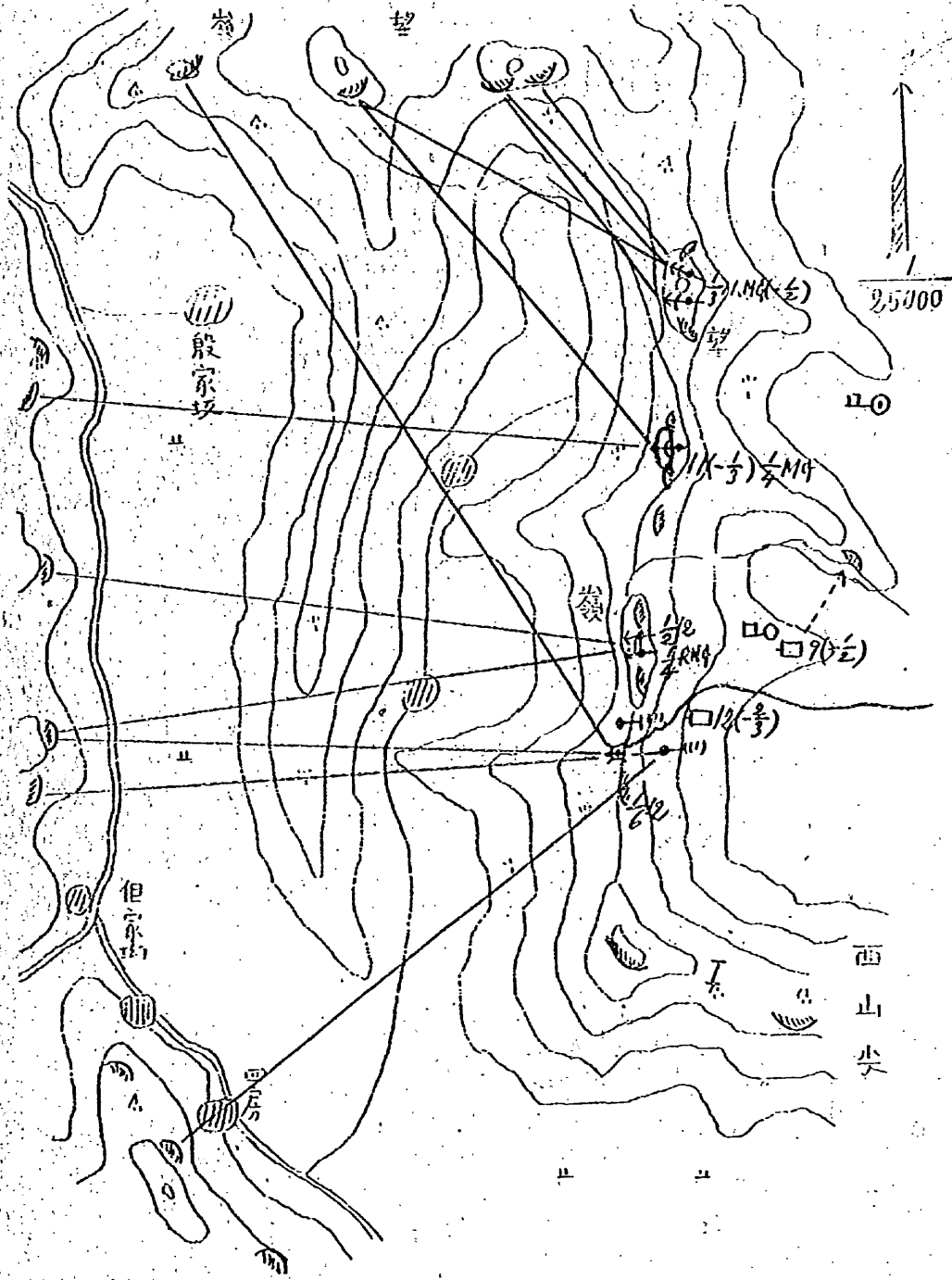
12-87

第七團戰 戰況圖 (於十月四日)



包圍敵國境
 大11中隊
 大12中隊
 1560

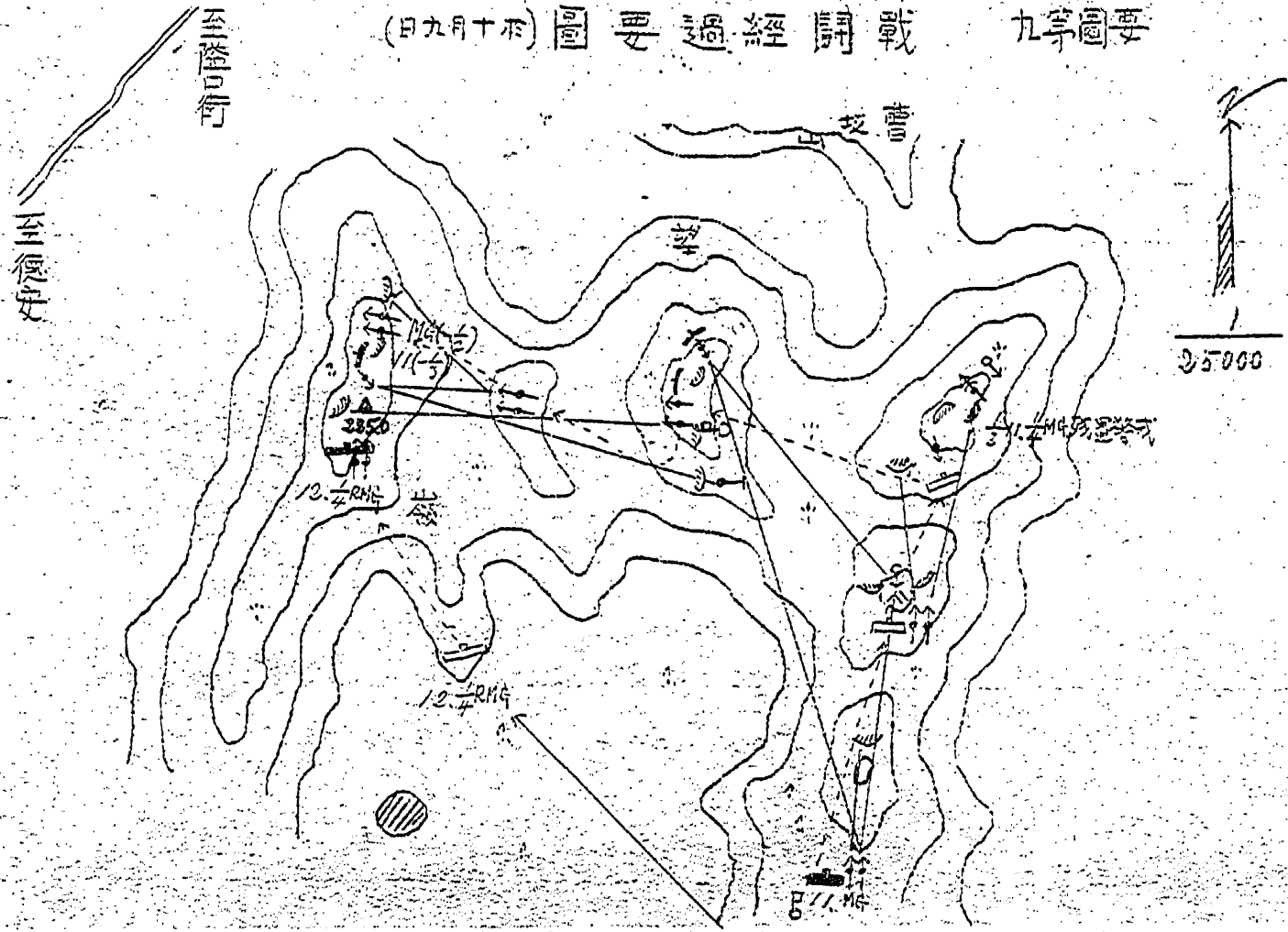
警戎配備要圖 (永十八日朝)



1561

1561

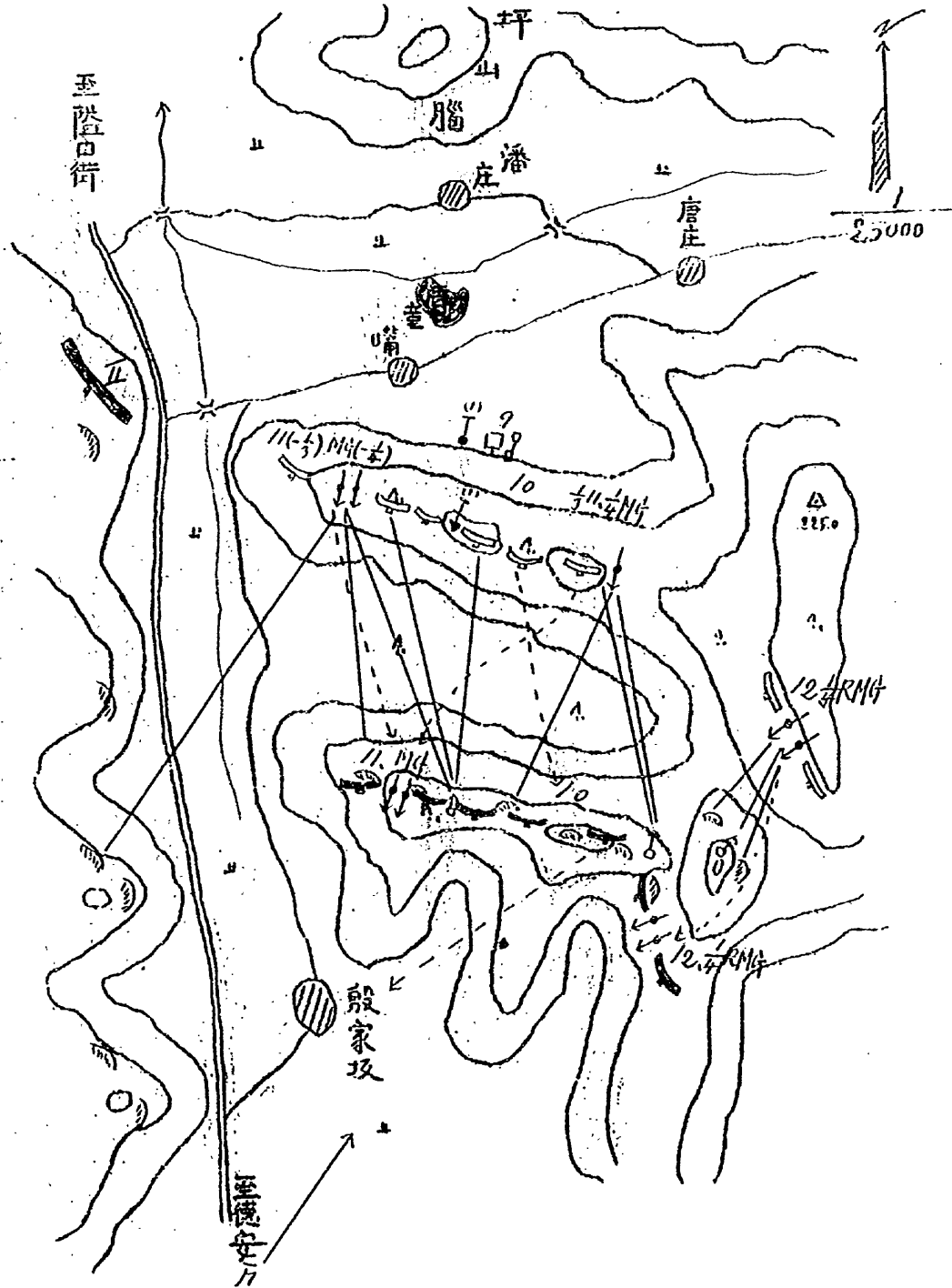
九字圖要 戰開經圖要 (日九月十月)



1562

157-40

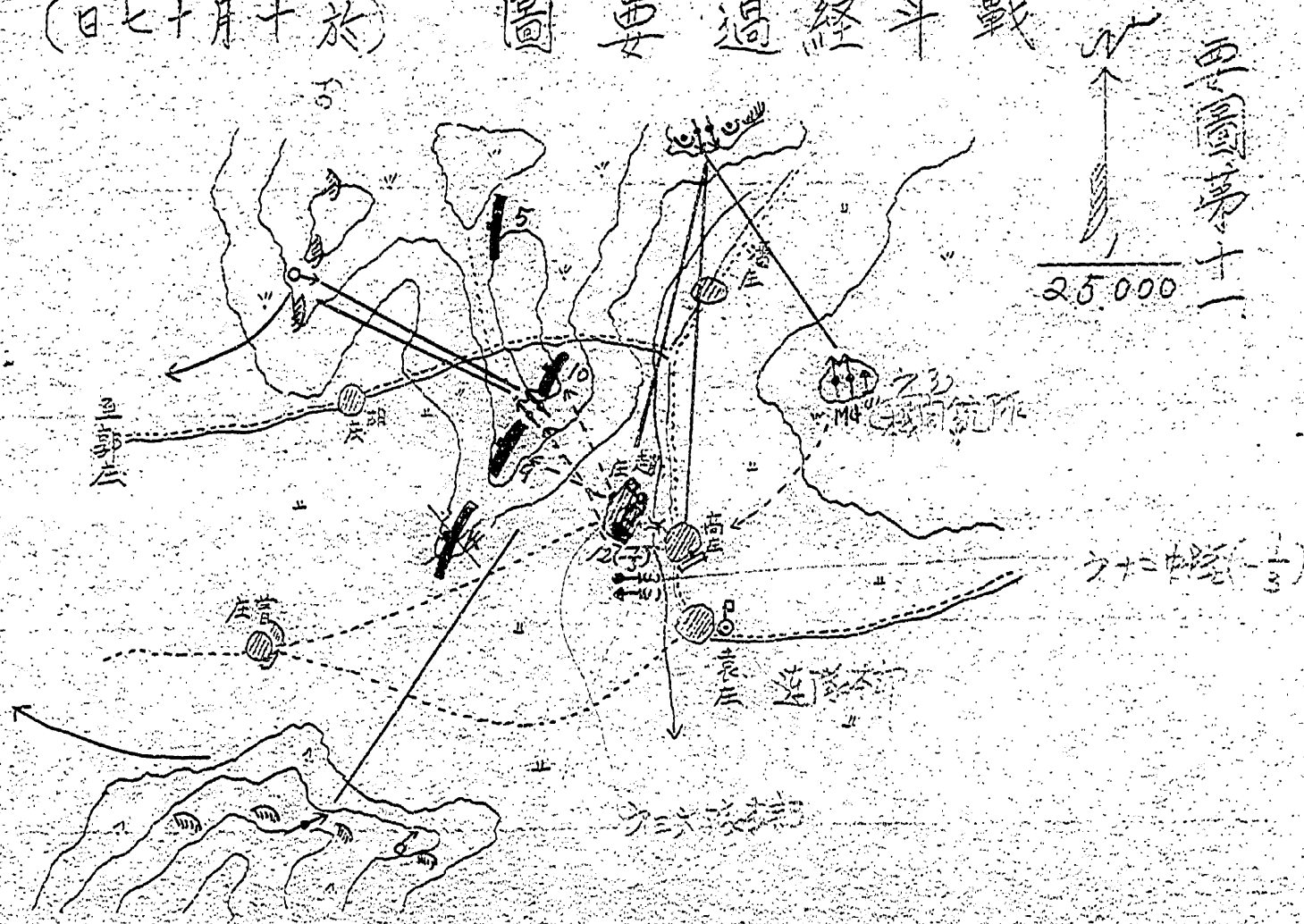
圖要過經戰 第十圖要 (日一十月十於)



17.9/

1563

(日七十月十於) 圖要過經斗戰



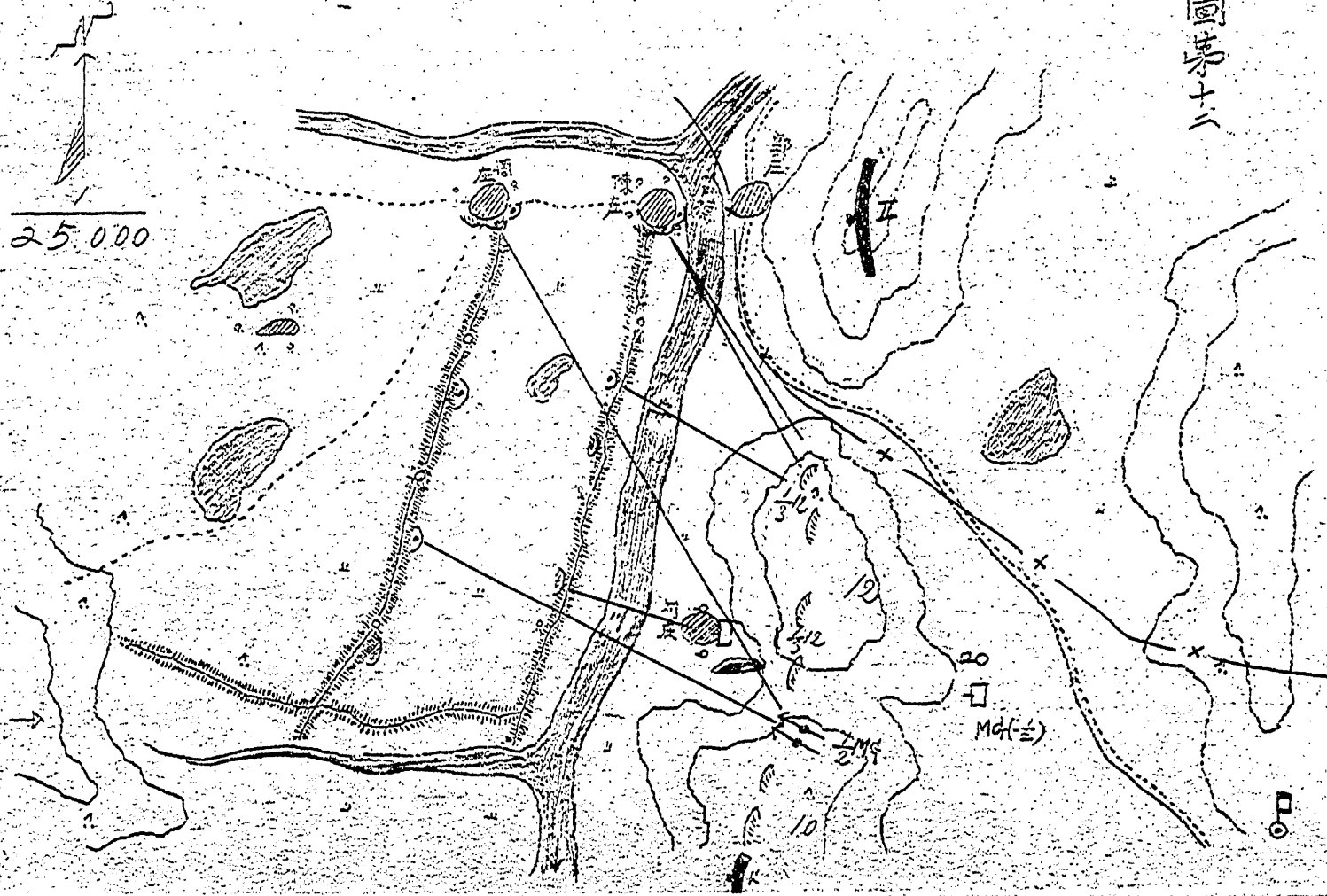
1564

1.7

(夕日八十月十初) 圖要備配戒警

三十三番圖

1565



17-50

戰鬪詳報第 號附表

昭和十三年自九月十七日 第三大隊死傷表

考 備	計	隊 區 分						戰鬪參加人馬		死		傷		生死不明		
		第九中隊	第十中隊	第十一中隊	第十二中隊	機關銃隊	本部	將校 准下 士官 兵	馬匹	將校 准下 士官 兵	馬匹	將校 准下 士官 兵	馬匹	將校 准下 士官 兵	馬匹	
本表外整傷ニシテ尚隊中ニ在ル者 第九中隊准士官下士官兵三名	計	三	三	五	二	三	八一	二〇	一	四	二	一	三			
	第九中隊	三	三	五	二	三	八一	二〇	一	四	二	一	三			
	第十中隊	三	三	五	二	三	八一	二〇	一	四	二	一	三			
	第十一中隊	五	三	五	二	三	八一	二〇	一	四	二	一	三			
	第十二中隊	二	三	五	二	三	八一	二〇	一	四	二	一	三			
	機關銃隊	三	三	五	二	三	八一	二〇	一	四	二	一	三			
	本部	八一	二〇	一	四	二	三	八一	二〇	一	四	二	一	三		
	戰鬪參加人馬	八一	二〇	一	四	二	三	八一	二〇	一	四	二	一	三		
	死	一	四	二	一	三	八一	二〇	一	四	二	一	三			
	傷	四	二	一	一	三	八一	二〇	一	四	二	一	三			
	生死不明	三	一	二	一	一	三	八一	二〇	一	四	二	一	三		

自昭和十三年九月十七日
至十月十八日

隘口街青石橋附近攻略戦

参加將校人名表

大隊本部

步兵少佐 徳永貞壽

步兵中尉 佐久間幸雄

主計中尉 中池彦雄

軍醫中尉 安田耕一

軍医見習士官 星合元

第九中隊

步兵中尉 武笠龍雄

步兵中尉 長島茂三郎

步兵少尉 保泉英次郎

步兵少尉 加藤卓藏

第十中隊

步兵大尉 小白寛

步兵中尉 相澤良兵衛

第十一中隊

步兵中尉 手澤誠

九月二十六日戦死

十月四日戦傷入院
後死亡

1728

第十二中隊

第三機関銃隊

歩兵中尉 森田一郎

歩兵少尉 京増忠雄

歩兵少尉 青木幸男

歩兵少尉 佐藤 賢

歩兵大尉 小川 藤

歩兵中尉 根來榮隆

歩兵少尉 初芝儀雄

歩兵中尉 藤原忠誠

歩兵少尉 中山謹治

各日軍兵隊に加入し、十月十日
に戦傷入院

九月二十六日戦傷
後死亡

九月三十日聯隊旗
手トナル

九月三十日補丸十月六日
に加入

九月三十日同日三十四日迄
平定入院

九月二十六日戦傷入院

九月三十日加入十月九日
戦傷入院

戰鬪詳報第 號附表

昭和十三年 至九月十七日 第三大隊 鹵獲表

種類	俘虜		戰利品	
	將校	准士官 下士官	銃	砲
區分	將校	准士官 下士官	馬匹	銃
本部				砲
第九中隊		二		實砲
第十中隊	一			砲彈
第十一中隊		八		器具
第十二中隊		百		糧秣
機關銃隊			三	輕機
計	一	元	三七	銃
				砲
				實砲
				砲彈
				器具
				糧秣
				輕機
				銃
				手榴
				其他
				防害面

備考
 一 俘虜ハ名九師ニ送騰田七團ニテ將校二三營五連ナリ
 二 銃三串ニ機關銃一アリ
 三 手榴彈使用セリ

戰鬪詳報 第 號附表

昭和十二年
自九月十八日
至十月十八日
步兵第一五七聯隊第三大隊
武器彈藥損耗表

備考	合計	隊 區 分					彈 藥			武 器			
		本 部	第九中隊	第十中隊	第十一中隊	第十二中隊	消 費	損 耗	其 他	損 耗	其 他	武 器	
			銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	
			銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	
			銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	
			彈 榴 手	彈 榴 手	彈 榴 手	彈 榴 手	彈 榴 手	彈 榴 手	彈 榴 手	彈 榴 手	彈 榴 手	彈 榴 手	
			銃 拳	銃 拳	銃 拳	銃 拳	銃 拳	銃 拳	銃 拳	銃 拳	銃 拳	銃 拳	
			機 工	機 工	機 工	機 工	機 工	機 工	機 工	機 工	機 工	機 工	
			銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	
			銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	
			銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	
			銃 騎	銃 騎	銃 騎	銃 騎	銃 騎	銃 騎	銃 騎	銃 騎	銃 騎	銃 騎	
			筒 彈 擲	筒 彈 擲	筒 彈 擲	筒 彈 擲	筒 彈 擲	筒 彈 擲	筒 彈 擲	筒 彈 擲	筒 彈 擲	筒 彈 擲	
			銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	銃 小	
			銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	銃 機 輕	
			銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	銃 機	
			彈 榴 手	彈 榴 手	彈 榴 手	彈 榴 手	彈 榴 手	彈 榴 手	彈 榴 手	彈 榴 手	彈 榴 手	彈 榴 手	
			銃 拳	銃 拳	銃 拳	銃 拳	銃 拳	銃 拳	銃 拳	銃 拳	銃 拳	銃 拳	
			劍 銃	劍 銃	劍 銃	劍 銃	劍 銃	劍 銃	劍 銃	劍 銃	劍 銃	劍 銃	

自昭和一三九七
一三六六

隘口街

嵐山附近

第九中队

中隊長步兵中尉
武笠龍雄

指揮

軍兼卷平次
栗平山誠
軍岩瀬其威
軍九谷芳雄
伍安西廣
伍大塚秀雄

伍古内健治
伍安藤辰夫
伍因余金部
伍鈴木含志
伍松崎一也
伍植草健治

伍成川勝男
伍高橋恭輔
伍白石勇二
伍高木忠三郎
伍宮崎浦次
伍齋藤利雄

伍長橋正雄
一鈴木義夫
一田庄三郎
一野村越良郎
一吉野章

第1中隊長 武笠龍雄

第2中隊長 小柳武二

第3中隊長 武笠龍雄

第4中隊長 武笠龍雄

第5中隊長 武笠龍雄

隊分一第 隊長
野口巖
小川俊部
宮崎春吉
鈴木次郎
大貫博隆

隊分二第 隊長
近藤喜一
古川一平
鈴木九次
高木英男
高井秀男
高井秀男
高井秀男
高井秀男
高井秀男
高井秀男
高井秀男
高井秀男

隊分三第 隊長
平新
鶴岡松一
長谷川以之助
長谷川以之助
長谷川以之助
長谷川以之助
長谷川以之助
長谷川以之助
長谷川以之助
長谷川以之助
長谷川以之助
長谷川以之助
長谷川以之助

隊分四第 隊長
菅谷勝雄
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉

隊分一第 隊長
粕谷貴
杉田秋吉
大野正雄
久保木重男
加藤貴吉
林早次
飛田考造
吉原正造
坂田正造

隊分二第 隊長
小川忠一
小川忠一
小川忠一
小川忠一
小川忠一
小川忠一
小川忠一
小川忠一
小川忠一
小川忠一
小川忠一
小川忠一
小川忠一

隊分三第 隊長
菅田治次
菅田治次
菅田治次
菅田治次
菅田治次
菅田治次
菅田治次
菅田治次
菅田治次
菅田治次
菅田治次
菅田治次
菅田治次

隊分四第 隊長
菅谷勝雄
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉
宮崎春吉

隊分一第 隊長
木宮錦二
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎

隊分二第 隊長
長谷川武
中山徳治
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄

隊分三第 隊長
鹿島五郎
藤枝卯次郎
宮原精一
宮原精一
宮原精一
宮原精一
宮原精一
宮原精一
宮原精一
宮原精一
宮原精一
宮原精一
宮原精一

隊分四第 隊長
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄

隊分一第 隊長
武次重吉
河野重吉
本橋源三郎
加藤源三郎
湯沢源三郎
宮田源三郎
内田源三郎
菅谷源三郎

隊分二第 隊長
長谷川武
中山徳治
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄

隊分三第 隊長
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄

隊分四第 隊長
武次重吉
河野重吉
本橋源三郎
加藤源三郎
湯沢源三郎
宮田源三郎
内田源三郎
菅谷源三郎

隊分一第 隊長
木宮錦二
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎

隊分二第 隊長
長谷川武
中山徳治
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄

隊分三第 隊長
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄

隊分四第 隊長
武次重吉
河野重吉
本橋源三郎
加藤源三郎
湯沢源三郎
宮田源三郎
内田源三郎
菅谷源三郎

隊分一第 隊長
木宮錦二
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎

隊分二第 隊長
長谷川武
中山徳治
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄

隊分三第 隊長
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄

隊分四第 隊長
武次重吉
河野重吉
本橋源三郎
加藤源三郎
湯沢源三郎
宮田源三郎
内田源三郎
菅谷源三郎

隊分一第 隊長
木宮錦二
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎
鈴木新太郎

隊分二第 隊長
長谷川武
中山徳治
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄
佐藤忠雄

隊分三第 隊長
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄
菅谷勝雄

隊分四第 隊長
武次重吉
河野重吉
本橋源三郎
加藤源三郎
湯沢源三郎
宮田源三郎
内田源三郎
菅谷源三郎

將校二
准士官一
下士官二九
兵九六
計一三八

口~149

自明治三十三年六月十日
至同 十月五日
隘口街 青石所 攻畧戦

步兵第百五十七野隊第十中隊編成表

中隊長 寺澤 誠

中隊副官 藤田 文

將校(少尉)	六名
下士官	二名
兵	一〇名
計	一八名

第一隊 中隊長 寺澤 誠									
伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠
中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長

伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠
伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠

第二隊 中隊長 寺澤 誠									
伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠
中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長

第三隊 中隊長 寺澤 誠									
伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠	伊藤 誠
中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長	中隊長

11-50

自九月一十四日隘口街青石橋附近略敵台山附近...

中隊長 代理 少尉 中山 謹治

第一小隊長 中尉 曹 鈴

Table with 10 columns and 10 rows listing names and ranks for the first squad (第一小隊).

第二小隊長 中尉 在 野

Table with 10 columns and 10 rows listing names and ranks for the second squad (第二小隊).

Table with 10 columns and 10 rows listing names and ranks for the third squad (第三小隊).

Table with 10 columns and 10 rows listing names and ranks for the fourth squad (第四小隊).

自十月六日 隘口街及青石橋附近 攻路 戦 胡生郭生附近 戦 闘

中隊長 中尉 藤原忠誠

第一小隊長 少尉 中山

軍曹 木定 中尉 政雄 同 大野 同 野 同 原 同 忠 同 雄

第一隊

1	長官	大	山	山	山
2	軍兵	小	島	島	島
3	同	同	同	同	同
4	同	同	同	同	同
5	同	同	同	同	同
6	同	同	同	同	同
7	同	同	同	同	同
8	同	同	同	同	同

第二隊

1	長官	小	山	山	山
2	軍兵	大	山	山	山
3	同	同	同	同	同
4	同	同	同	同	同
5	同	同	同	同	同
6	同	同	同	同	同
7	同	同	同	同	同
8	同	同	同	同	同

第三隊

1	長官	大	山	山	山
2	軍兵	小	山	山	山
3	同	同	同	同	同
4	同	同	同	同	同
5	同	同	同	同	同
6	同	同	同	同	同
7	同	同	同	同	同
8	同	同	同	同	同

第四隊

1	長官	大	山	山	山
2	軍兵	小	山	山	山
3	同	同	同	同	同
4	同	同	同	同	同
5	同	同	同	同	同
6	同	同	同	同	同
7	同	同	同	同	同
8	同	同	同	同	同

第一隊

1	長官	大	山	山	山
2	軍兵	小	山	山	山
3	同	同	同	同	同
4	同	同	同	同	同
5	同	同	同	同	同
6	同	同	同	同	同
7	同	同	同	同	同
8	同	同	同	同	同

第二隊

1	長官	大	山	山	山
2	軍兵	小	山	山	山
3	同	同	同	同	同
4	同	同	同	同	同
5	同	同	同	同	同
6	同	同	同	同	同
7	同	同	同	同	同
8	同	同	同	同	同

入院患者

1	同	同	同	同	同
2	同	同	同	同	同
3	同	同	同	同	同
4	同	同	同	同	同
5	同	同	同	同	同
6	同	同	同	同	同
7	同	同	同	同	同
8	同	同	同	同	同

第三機關銃隊